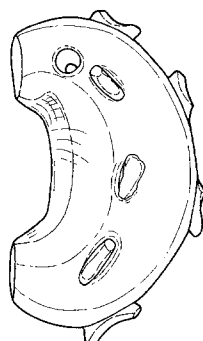


市原市文化財センター年報

平成2年度



財団法人 市原市文化財センター

序

(財)市原市文化財センターは、昭和57年に発足以来、市内馬立の保育所跡地を借用し、業務を遂行してまいりましたが、平成2年6月、能満の地に新設された公立の埋蔵文化財調査センター内に本部を移し、組織・施設の充実を図ると共に、気分を一新し調査研究・啓蒙普及活動を進めております。

平成2年度の発掘調査は、公共・民間を含め試掘1、確認調査13、本調査11について実施いたしました。その結果、縄文時代から近世にいたる各種の遺構・遺物を検出し、重要な成果を得ております。

特に、五所四反田遺跡では、市内の遺跡から出土例のない古墳時代の木製品が多数出土しましたが、この中には、全国的にも稀な杖状の木製品や鳥形木製品など、当時の祭祀や農耕儀礼文化を推察する上で貴重な資料も含まれております。また、江戸時代に建立された国分寺薬師堂の解体修理に伴う調査では、薬師堂基壇の中央部に掘り込まれた50cm四方ほどの穴から、底面に揃え置かれた5本の棒上に、地鎮具と思われる皿7枚、寛永通宝13枚が出土し、江戸時代中頃の精神文化の一端を窺うことが出来ました。

これらの調査成果につきましては、平成3年3月に開催致しました第6回市原市文化財センター遺跡発表会を通して、広く市内外の方々に公表いたしております。また、当日は、市原市の古道と近年発掘調査された日本の古代道路につきまして、(財)千葉県文化財センター大谷弘幸先生、國學院大學教授木下良先生からそれぞれ貴重な御講演を頂きました。

今日の文化財を取り巻く状況は、開発との調整をはじめ、極めて困難な局面が内在しており、今後共関係各位との協調を図りながら、郷土市原の貴重な文化財をまもり、市民の方々にとってより親しみ易い文化財として保護・活用されるよう啓蒙普及活動を通じ、文化財センターとしての存在と努力を重ねてまいりたいと思っております。

最後に、御指導・御協力を賜りました千葉県教育委員会、市原市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、心より御礼申し上げます。

平成6年12月20日

財団法人市原市文化財センター
理事長 佐野年男

目 次

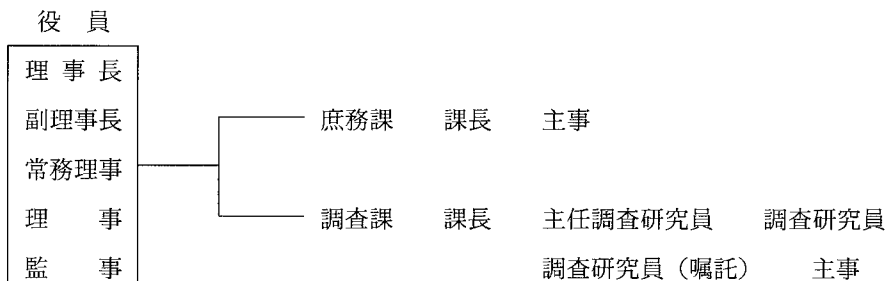
序

I 機 構	1
II 平成2年度事業概要	2
III 平成2年度調査概要	6
1. 能満分区遺跡群(本調査)	8
2. 待戸遺跡・待戸供養塚(確認調査・本調査)	10
3. 史跡上総国分寺跡(西辺部)	11
4. 史跡上総国分寺跡(国分寺薬師堂基壇部)	14
5. 姉崎東原遺跡B地点(確認調査)	17
6. 南岩崎多田良遺跡(確認調査)	17
7. 草刈尾梨遺跡(確認調査)	18
8. 安久谷向ノ岱遺跡(確認調査・本調査)	18
9. 山田橋表通遺跡(確認調査)	19
10. 山木白船城跡(確認調査)	19
11. 村上遺跡群(確認調査)	20
12. 大厩浅間様古墳(本調査)	24
13. 椎津茶ノ木遺跡(本調査)	26
14. 五所四反田遺跡(確認調査・本調査)	28
15. 磯ヶ谷竹ノ下遺跡(試掘調査)	30
16. 上高根南名山遺跡(確認調査・本調査)	31
17. 六孫王原遺跡(C区・D区)(確認調査・本調査)	32
18. 佐 是 城 跡(確認調査・本調査)	34
19. 草刈尾梨遺跡(本調査)	35
20. 山木白船城跡(本調査)	36
IV 平成2年度受贈区書一覧	37

I 機 構

財団法人市原市文化財センターの機構は、役員及び職員から構成されている。役員は、寄附行為の定めにより、理事長、副理事長、常務理事、理事、監事をもって構成され、平成2年度の職員は、事務職員4名（内市都市公社出向職員1名）、技術職員11名（内市事務従事職員9名）であり、その組織及び氏名は以下のとおりである。

(1) 組 織



(2) 役 員

職 名	役 職 名	氏 名
理 事 長	市原市教育委員会教育長	星野一郎
副理事長	市原市教育委員会社会教育部長	栗林 繁
常務理事	専 任	淵本献司
理 事	早稲田大学名誉教授	滝口 宏
理 事	和洋女子大学教授	寺村光晴
理 事	姉 埼 神 社 宮 司	海上信久

職 名	役 職 名	氏 名
理 事	市 原 市 企 画 部 長	根本正夫
理 事	市 原 市 総 務 部 長	露崎 繁
理 事	市 原 市 財 務 部 長	石井作二
理 事	市原市都市計画部長	坂本忠夫
監 事	市 原 市 会 計 課 長	佐久間章
監 事	市原市教育委員会総務課長	小宮 仁

(3) 職 員

所 属	職 名	氏 名
庶務課	課 長	田 丸 萬 富
	主 事	大 鐘 光 江
	主 事	永 野 健 一
調 査 課	課 長	矢 戸 三 男
	主任調査研究員	田 中 清 美
	主任調査研究員	浅 利 幸 一
	調査研究員	大 村 直

所 属	職 名	氏 名
調 査 課	調査研究員	近 藤 敏
	調査研究員	高 橋 康 男
	調査研究員	木 對 和 紀
	調査研究員	忍 澤 成 視
	調査研究員	田 中 茂 良
	調査研究員（嘱託）	田 中 新 史
	調査研究員（嘱託）	半 田 堅 三
主 事	高 浦 貞 子	

II 平成2年度事業概要

1. 理事会の開催

平成2年度の理事会は、次のとおりに開催された。

- 第1回理事会 平成2年5月29日 於：市原市市民会館第3会議室
 議案第1号 平成元事業年度事業報告について
 議案第2号 平成元事業年度収入支出決算について
- 第2回理事会 平成2年11月28日 於：市原市埋蔵文化財調査センター会議室
 議案第1号 平成2事業年度事業計画の変更について
 議案第2号 平成2事業年度補正予算（第1号）について
- 第3回理事会 平成3年3月25日 於：市原市市民会館第3会議室
 議案第1号 平成2事業年度事業計画の変更について
 議案第2号 平成2事業年度補正予算（第2号）について
 議案第3号 平成3事業年度事業計画について
 議案第4号 平成3事業年度収入支出予算について
 議案第5号 財団法人市原市文化財センター職員の退職手当の支給に関する
 規程及び職員の退職勧奨要綱の制定について

2. 会計監査

平成2事業年度の会計監査は、平成3年5月24日、(財)市原市文化財センター事務室において、佐久間章・小宮仁両監事により実施された。

3. 平成2事業年度受託事業

(単位：円)

番号	継続 又は 新規	事業名	委託者	遺跡名	種別	面積・数量	事業内容	契約年月日	終了年月日	受託金額
1	継続	市道166号線改良に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (道路建設課)	能満分区 遺跡群	集落跡 ほか	3,000㎡	本調査	平成2年6月29日	平成3年3月30日	12,274,510
2	継続	市道161号線改良に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (道路建設課)	新堀叶台	集落跡	1,700㎡	整理	平成2年9月27日	平成3年3月30日	7,153,350
3	新規	牛久配水池建設に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (水道建設課)	待戸遺跡 待戸古墳 待戸遺跡	包蔵地	2,230㎡	確認調査	平成2年11月30日	平成3年3月30日	7,135,840
						古墳1基	本調査			3,206,390
						150㎡	本調査			平成3年1月25日
4	継続	史跡整備に伴う史跡上総国分寺跡確認調査	市原市 (文化課)	史跡上総 国分寺跡	寺院跡	440㎡	確認調査	平成2年4月2日	平成3年3月30日	10,683,160
5	新規	市原市埋蔵文化財調査センター収蔵品整備事業	市原市 (文化課)	国分寺台 遺跡群他			収蔵品 整備	平成2年10月1日	平成3年3月30日	5,362,180

番号	継続 又は 新規	事業名	受託者	遺跡名	種別	面積・数量	事業内容	契約年月日	終了年月日	受託金額
6	継続	国分寺薬師堂解体修理に伴う埋蔵文化財調査	市原市 (文化課)	史跡上総 国分寺跡	寺院跡	260㎡	確認調査	平成2年4月1日	平成3年3月30日	3,213,600
7-a	新規	市内遺跡群発掘調査	市原市 (文化課)	不特定遺跡	包蔵地	1,202㎡	確認調査・ 本調査 整理(市単費)	平成2年7月2日	平成3年3月30日	2,472,376
7-b	新規	市内遺跡群発掘調査	市原市 (文化課)	不特定遺跡	包蔵地	1,202㎡	確認調査・ 本調査 整理(補助金)	平成2年7月2日	平成3年3月30日	7,539,600
8	継続	上総国府推定地 確認調査	市原市 (文化課)	村上地区	国府跡	516㎡	確認調査	平成3年3月1日	平成3年3月30日	4,184,880
9	新規	不特定遺跡整理・ 報告書刊行	市原市 (文化課)	小田部向原 遺跡 他	集落跡	2,000㎡	整理・刊 行	平成2年4月2日	平成3年3月30日	7,240,900
10	継続	国分寺台土地区画整 理事業に伴う埋蔵文 化財調査	市原市 (文化課)	国分寺台遺跡 群(西広貝塚他)	集落跡	4,000㎡	基礎整理	平成2年4月2日	平成3年3月30日	5,862,490
11	継続	砂防整備工事に伴う 埋蔵文化財調査	千葉県 (市原土木 事務所)	潤井戸 小谷1号墳	古墳	古墳1基 1,000㎡	整理	平成2年12月28日	平成3年3月30日	2,401,960
12	継続	後楽園市原レクリエ ションワールド建設に 伴う埋蔵文化財調査	株式会社 後楽園 スタジアム	荻原野A・ B・C地区	集落跡 古墳	47,000㎡	(A区) 整理 (B・C区)	平成元年4月1日 平成元年4月1日	平成3年3月30日 平成3年3月30日	3,397,666 5,521,080
13	継続	宅地造成(大蔵地区) に伴う埋蔵文化財調査	株式会 社一研	大蔵浅間塚	古墳1基 集落跡	1,430㎡	本調査 整理・刊 行	平成元年12月11日	平成3年3月30日	16,347,011
14	継続	宅地造成(椎津地区) に伴う埋蔵文化財調査	千葉ホーム 株式会社	椎津茶ノ木	集落跡	2,639㎡	本調査 整理	平成2年1月4日	平成3年3月30日	25,676,643
15	継続	宅地造成(市原地区) に伴う埋蔵文化財調査	東横不動産 株式会社	郡本大宮	集落跡	5,500㎡	整理 報告書刊 行	昭和63年12月1日	平成3年3月30日	4,286,672
16	継続	市原ゴルフ倶楽部増設 に伴う埋蔵文化財調査	サンヨー食品 株式会社	上原台	古墳 集落跡	69,000㎡	整理	平成元年4月1日	平成3年3月30日	4,358,992
17	新規	白金第2小学校建設 に伴う埋蔵文化財調査	市原市土地 開発公社	五所四反田	包蔵地	29,205㎡ 5,700㎡	確認調査 本調査	平成2年6月1日	平成3年2月7日	74,467,970
18	新規	三和運動広場建設に 伴う埋蔵文化財調査	市原市 (社会体育課)	磯ヶ谷 竹ノ下	包蔵地	35,605㎡	試掘	平成2年9月14日	平成3年3月30日	305,910
19	継続	市道6018号線改良に 伴う埋蔵文化財調査	市原市 (道路建設課)	南名山	包蔵地	1,370㎡	確認調査	平成2年9月27日	平成3年3月30日	4,238,450
20	新規	ガソリンスタンド (草刈地区)建設に 伴う埋蔵文化財調査	三井石油 株式会社	草刈尾梨	集落跡	450㎡	本調査	平成2年11月22日	平成3年3月30日	5,060,901
21	継続	マンション建設(姉 崎地区)に伴う埋蔵 文化財調査	ダイア建設 株式会社	六孫王原C 六孫王原D	包蔵地 集落跡	8,623㎡ 4,700㎡	確認調査 本調査	平成2年11月29日	平成3年3月30日	17,825,326
22-a	新規	不特定遺跡発掘調査 事業(佐是城跡)	市原市 (文化課)	佐是城跡	城跡	330㎡	本調査 (市単費)	平成3年1月9日	平成3年3月30日	656,866
22-b	新規	不特定遺跡発掘調査 事業(佐是城跡)	市原市 (文化課)	佐是城跡	城跡	330㎡	本調査 (補助金)	平成3年1月9日	平成3年3月30日	2,678,000
23	新規	宅地造成(山木地区) に伴う埋蔵文化財調査	若宮商事 株式会社	白船城跡	城跡	241㎡	本調査	平成3年2月1日	平成3年3月30日	2,725,554
24	新規	ガソリンスタンド (山田橋地区)建設に 伴う埋蔵文化財調査	日本石油 株式会社	山田橋表通	貝塚 集落跡	1,862㎡	本調査	平成3年2月28日	平成3年3月30日	1,656,315
合 計										247,934,602

4. 職員研修

- | | |
|-----------------------------|-------------|
| (1) 全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修 | 於：福島県会津若松市 |
| (2) 全国埋蔵文化財関東・中部ブロック法人連絡協議会 | 於：山梨県石和町 |
| (3) 関東甲信越静地区埋蔵文化財担当職員共同研修会 | 於：千葉県千葉市 |
| (4) 千葉県埋蔵文化財法人連絡協議会合同海外研修 | 於：韓国（慶州～光州） |

5. 報告書の刊行

不特定遺跡(2)

郡本大宮遺跡

大厩浅間様古墳

市原市内遺跡

6. 普及活動

- (1) 遺跡発表会 平成3年3月3日(日) 於：市原市五井会館
平成2年度発掘調査成果の発表 担当職員
特別講演

『古代の道』－市原条里制遺跡検出の古道跡について－

(財)千葉県文化財センター調査部技師 大谷弘幸

『近年の発掘成果による日本の古代道』－市原市における道路跡にもふれて－

國學院大學教授 木下 良

- (2) 印刷物の刊行

『私たちの文化財』16・17号



7. 決算報告

(1) 平成元年度

収入の部

(単位：円)

科 目	予 算 額			決 算 額	差 異	備 考
	当初予算額	補正予算額	合 計			
基本財産運用収入	400,000	46,000	446,000	446,152	152	
事業収入	421,690,000	△3,579,000	418,111,000	389,321,660	△28,789,340	
雑収入	658,000	8,893,000	9,551,000	10,630,343	1,079,343	
当期収入合計	422,748,000	5,360,000	428,108,000	400,398,155	△27,709,845	
前期繰越収支差額	5,316,000	5,445,000	10,761,000	10,761,289	289	
収入合計	428,064,000	10,805,000	438,869,000	411,159,444	△27,709,556	

支出の部

科 目	予 算 額			決 算 額	差 異	備 考
	当初予算額	補正予算額	合 計			
受託事業費	390,069,000	△14,352,000	375,717,000	354,623,775	△21,093,225	
研究事業費	3,059,000	—	3,059,000	1,483,488	△1,575,512	
普及事業費	4,150,000	—	4,150,000	1,810,794	△2,339,206	
一般管理費	20,450,000	142,000	20,592,000	13,030,707	△7,561,293	
固定資産取得支出	1,030,000	—	1,030,000	1,091,570	61,570	
財政調整基金 積立預金支出	—	20,130,000	20,130,000	11,908,035	△8,221,965	
消費税支出	—	2,508,000	2,508,000	2,210,000	△298,000	
予備費	3,090,000	△3,090,000	0	—	—	
当期支出合計	421,848,000	5,338,000	427,186,000	386,158,369	△41,027,631	
当期収支差額	900,000	22,000	922,000	14,239,786	13,317,786	
次期繰越収支差額	6,216,000	5,467,000	11,683,000	25,001,075	13,318,075	

(2) 平成2年度

収入の部

科 目	予 算 額			決 算 額	差 異	備 考
	当初予算額	補正予算額	合 計			
基本財産運用収入	400,000	—	400,000	709,176	309,176	
事業収入	399,155,000	△146,930,000	252,225,000	248,168,902	△4,056,098	
雑収入	1,116,000	—	1,116,000	11,440,549	10,324,549	
当期収入合計	400,671,000	△146,930,000	253,741,000	260,318,627	6,577,627	
前期繰越収支差額	11,683,000	13,318,000	25,001,000	25,001,075	75	
収入合計	412,354,000	△133,612,000	278,742,000	285,319,702	6,577,702	

支出の部

科 目	予 算 額			決 算 額	差 異	備 考
	当初予算額	補正予算額	合 計			
受託事業費	358,986,000	△135,697,000	223,289,000	221,210,435	△2,078,565	
研究事業費	2,873,000	—	2,873,000	1,595,579	△1,277,421	
普及事業費	3,910,000	△844,000	3,066,000	1,481,737	△1,584,263	
一般管理費	19,154,000	△1,000,000	18,154,000	14,056,065	△4,097,935	
固定資産取得支出	1,030,000	—	1,030,000	1,320,460	290,460	
財政調整基金 積立預金支出	8,284,000	△5,668,000	2,616,000	3,701,129	1,085,129	
消費税支出	2,394,000	△881,000	1,513,000	1,463,200	△49,800	
予備費	3,090,000	△3,090,000	0	—	—	
当期支出合計	399,721,000	△147,180,000	252,541,000	244,828,605	△7,712,395	
当期収支差額	950,000	250,000	1,200,000	15,490,022	14,290,022	
次期繰越収支差額	12,633,000	13,568,000	26,201,000	40,491,097	14,290,097	

Ⅲ 平成2年度調査概要

当年度の調査は、試掘1か所、確認調査13か所（内国庫・県費補助による市内遺跡確認調査6か所）、本調査11か所について実施した。

調査の対象となった遺跡は、縄文時代から近世の広範囲に及び、貝塚・集落・古墳・寺跡・城跡等さまざまな性格を有している。

縄文時代では、調査面積は少ないものの、山田橋表通遺跡において後期の地点貝層が確認され、椎津茶ノ木遺跡では後期の竪穴住居跡が4軒検出されている。

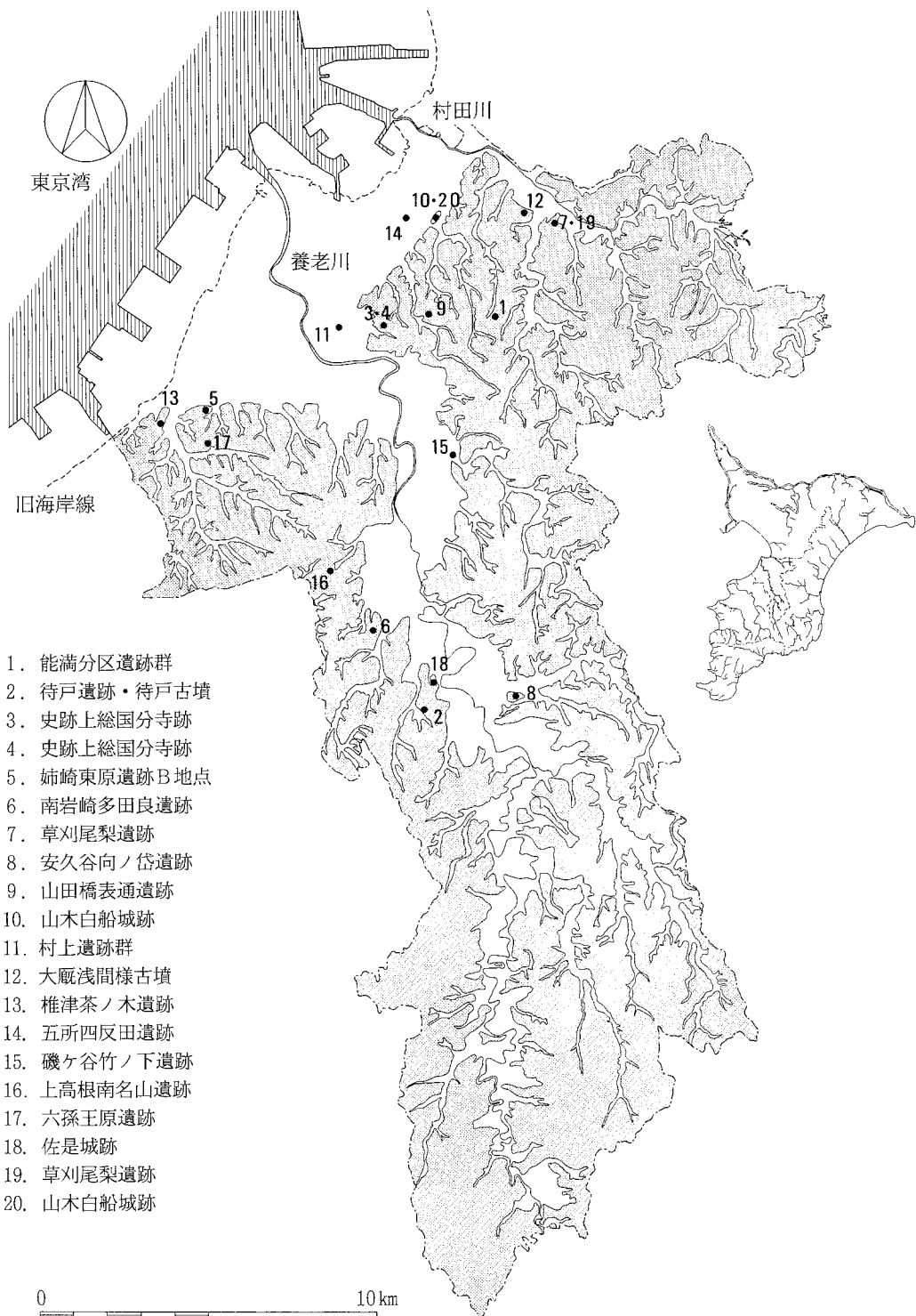
弥生時代では、椎津茶ノ木遺跡で中期7軒、後期10軒の竪穴住居跡が検出されているが、特に、後期の大型住居跡床面上から破片も含めて10点以上の勾玉形をはじめとする琥珀製品が出土したことが貴重な例として挙げられる。また、昭和59年度の調査で3基の埋葬施設が検出されている大厩浅間様古墳の下層調査で、中期の方形周溝墓7基、後期の竪穴住居跡9軒などが検出され、3基の方形周溝墓から壺形土器が、竪穴住居跡から銅釧片が出土している。

古墳時代では、低地の調査として実施した五所四反田遺跡で、多量の木製品が検出されたことが特筆される。特に、後期の溝内からの出土が多く、それらには建築用材料をはじめとして鍬・鋤・杵・横槌などの農工具や曲物・皿に加え、櫛や祭祀用と思われる杖形のもの等、木製品研究に好資料を加えることができた。

当年度は、上総国分寺跡関係の調査を2件実施している。1件は国分寺跡の環境整備計画に関連して実施したもので、前年度に確認された西門跡の南側柱列の存在、寺域の外郭溝、西門北方の建物跡などが確認されている。また、伽藍地区の内部から寺の造営にかかわるとと思われる奈良時代後半の住居跡や、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての集落跡も確認されている。他の1件は、国分寺のほぼ中央部に位置する薬師堂に関連して実施したものである。薬師堂は江戸時代中頃の正徳6年建立とされているが、老朽化に伴い解体修理を実施することに合わせて発掘調査を実施した。その結果、特徴的な遺構として、基壇のほぼ中央部から深さ40cm、65cm×55cmの長方形な小竪穴遺構が検出されている。覆土は砂質土で、中からカワラケ7枚、寛永通宝13枚、棒状木製品5点が出土していることから、薬師堂建立時の地鎮祭に伴う用具類を埋納した施設と思われる。

また、元年度から実施している上総国府推定地確認調査は、引き続き村上地区で実施し、掘立柱建物跡1棟、井戸跡1か所、溝数条を検出したが国府の存在を積極的に立証することはできなかった。

中近世の調査では、佐是城跡の一部を調査しているが、築城にかかる整地面と小石集中地点ならびにピット群を検出したに過ぎない状況であった。（米田耕之助）



平成2年度 調査遺跡位置図

1. 能満分区遺跡群

事業名 市道166号線改良に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市能満1925番地他

調査期間 平成2年7月4日～平成2年11月2日

調査面積 3,000㎡（本調査）

調査概要 標高40～43mの舌状台地中央部と、南に約500mの標高49mの台地上の2地点で調査が行われた。北区、南区ともに道路などの関係でそれぞれ3つに区画されている。

北区の北部では、弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての住居跡2基と甕1点が埋納された土壌が1基検出されている。現地表下1.5mと深い位置にある住居跡は、比較的遺物が豊富で完形品5点と整理箱2箱分の土器片が出土している。完形品の内2点はミニチュア土器で炉の周囲の床面からの出土だった。土壌内の甕は、焼成後に底部穿孔されており墓壇と考えられるが黒色土中に構築されており遺構の輪郭を明確に捉えることができなかった。

この区ではほかに陥し穴が1基検出されている。

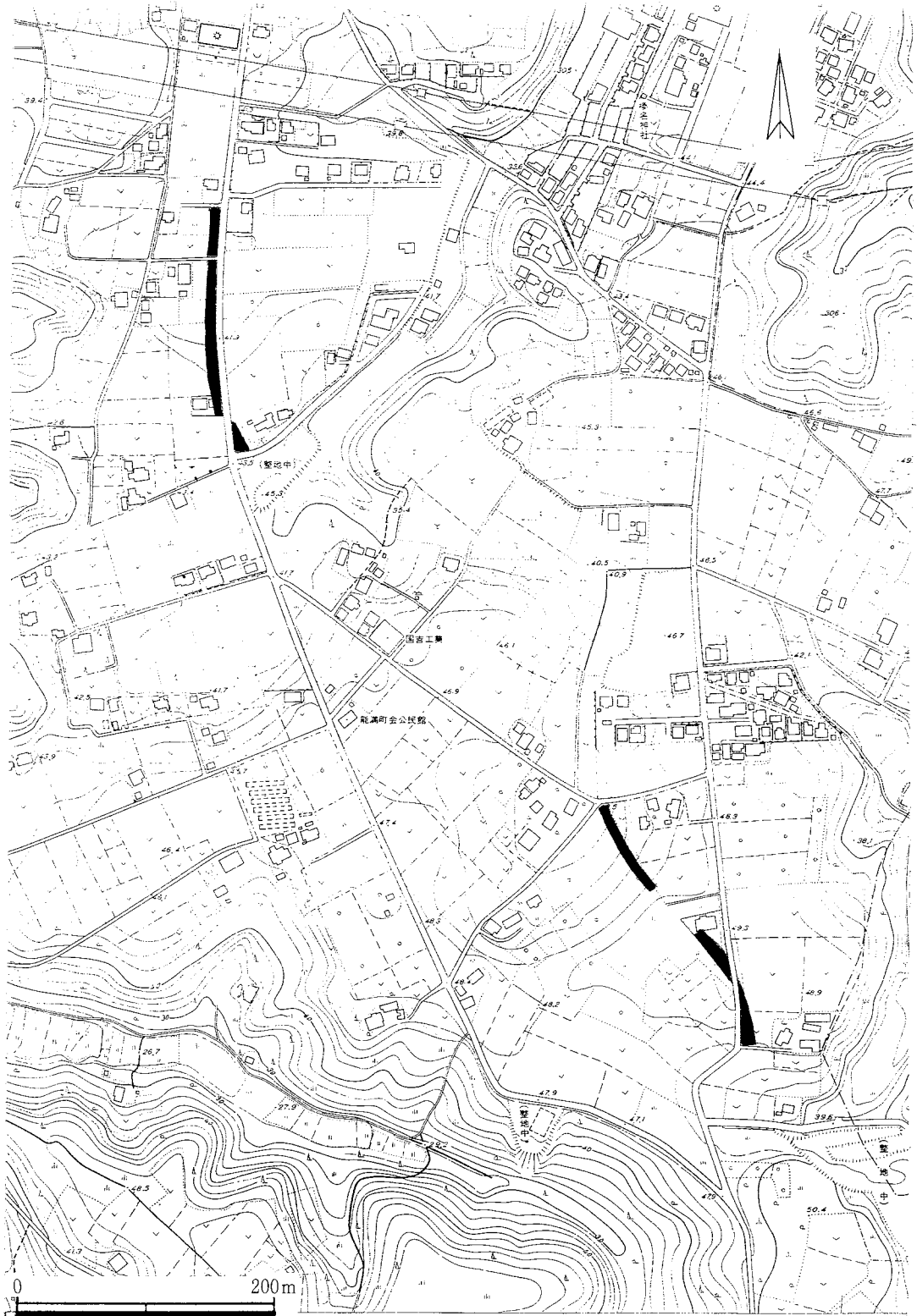
北地区中央部は南北115mを測るが北半分は3基の陥し穴と2基の土壌、南半分は多くの土壌と住居跡1基が検出されている。住居跡は、縄文時代後期のもので西側の一部分のみの調査ではあるが壁際に柱穴が並び多数の穴を穿った石皿、いわゆる蜂の巣石が出土している。住居跡周辺から南にかけて多くの土壌が集中している。内部に押しつぶされた状態で土器が残るものが多くほぼ完形に復元できたものが6点あった。住居跡近くの深い円形土壌からは整理箱6杯分の貝が出土している。

北地区南部、道路を隔てて二重にめぐる周溝を持つ方形周溝墓1基が検出された。内側の周溝が南に偏っていることから重複とも考えられるが、上部が畑で攪乱されているため前後関係は不明である。

南区は別の台地上になり、中央部と南部の調査区が能満分区貝塚の東縁辺に当たる。貝の散布は認められないものの貝塚の延長として遺構が検出されることが予想されていたが、意に反して若干の土壌、ピットを除いて縄文時代の遺構は検出されなかった。

南部北側の確認調査のトレンチで検出されていた溝状の遺構を精査した結果、道路跡であることが判明した。遺物がなく時期は不明だが、その形態から中世以後のものであろう。

北区については、南側の高所に墓域、一段低い北側に住居跡という弥生時代終末期から古墳時代前期初頭の集落と多くの土壌群と住居跡の縄文時代後期の集落縁辺部の様相を捉えることができたことが成果といえよう。それに比べ南区は予想に反した結果となってしまったが、逆に能満分区貝塚がここまでは及んでいなかったことを確認することとなった。（半田堅三）



第1図 能満分区遺跡群位置図 5000分の1

2. 待戸遺跡・待戸供養塚

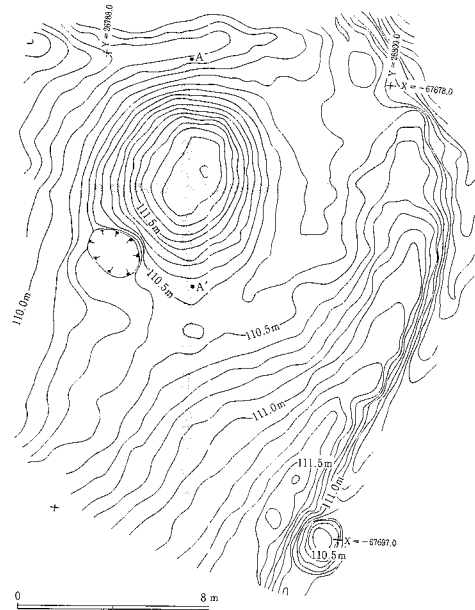
事業名 牛久配水池建設に伴う埋蔵文化財調査
所在地 市原市西国吉字待戸130-1他
調査期間 平成2年12月1日～平成3年2月28日
調査面積 1,750㎡のうち175㎡(確認調査)、150㎡(本調査)

調査概要 市原市中央部の小湊鉄道上総牛久駅の南西方1.75kmの標高70m程の緩斜面(散布地)及び、110m程の丘陵北縁部(供養塚)に位置する遺跡で、配水池築造工事に先行して確認調査～本調査を実施した。

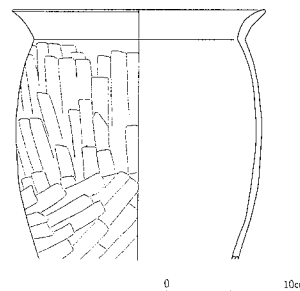
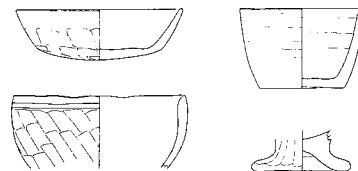
散布地の確認調査は、斜面に直行する方向に5本、最下段に1本のトレンチを設定した。調査の結果斜面部に数段の台地の整形が見られたが、整形土中に宝永の火山灰がブロック状に検出され、近世以降に台地整形の行われたことが明らかとなっている。また、丘陵裾部で粘土の散布及び土器片の出土が認められ、この部分150㎡について本調査を実施した。

本調査の結果、住居跡2軒、土坑2基、溝跡等が検出されている。住居跡2軒の内1軒では、カマド周辺及び床面直上から右図に示したような土器が出土し、住居跡が奈良・平安時代に位置づけられることが明らかとなっている。また、斜面部から鋸が出土している。

供養塚については、当初古墳として調査を開始したが、周溝を持たないこと、盛土は褐色系の土で突き固めることなく盛り上げていること、伴出遺物もなく、主体部も検出されないことなどから、最終的には供養塚と判断している。形態は不整円形を呈し、直径は約8m、高さ約1mの規模をもつものであった。(米田耕之助)



待戸供養塚現況測量図



1号住居跡出土土器実測図

3. 史跡^{かずきこくぶんじあと}上総国分寺跡（西辺部）

事業名 史跡整備に伴う史跡上総国分寺跡確認調査

所在地 市原市惣社字壺町畑1787番地他

調査期間 平成2年4月1日～平成2年8月31日

調査面積 4,400㎡のうち440㎡

調査概要 今年度の調査は、前年度の調査の結果を踏まえて、実施されたものであるため、まず、前年度の調査の結果について、概略を述べておく。平成2年3月に実施された調査において、西門跡（八脚門）と推定される遺構が検出され、またそれに先行する建物跡も検出された。さらに、西門南側に取りつく、一本柱列が検出された。

以上の結果を踏まえ、今年度の調査を実施する運びとなった。その際、課題として設定したのは、以下の点である。

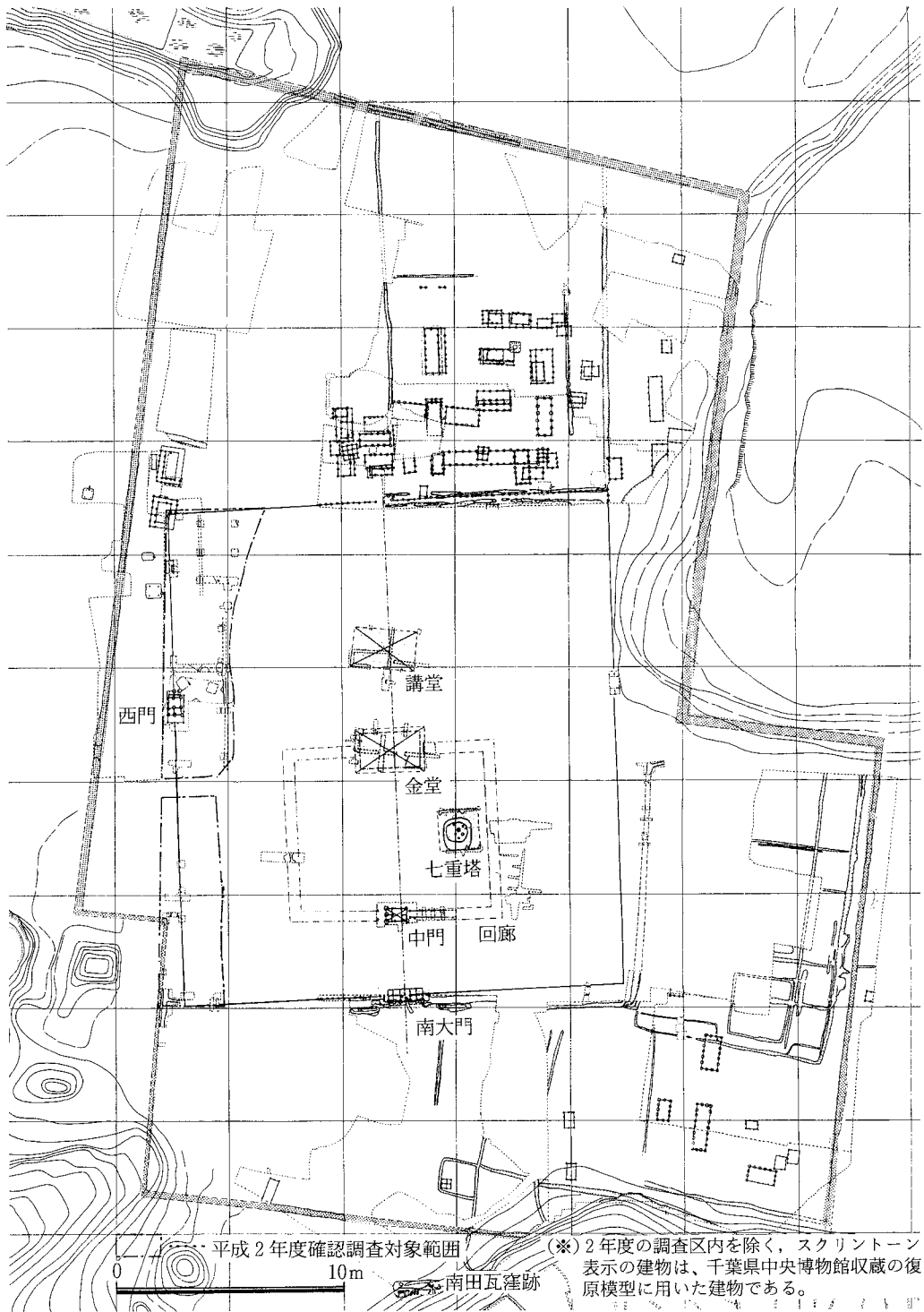
- 1) 西門南側の柱列の延長を明確にすること。
- 2) 西門北側において、南側と同様に柱列が存在するかどうか確認すること。
- 3) 寺域の外郭溝、および神門3号墳北東に存在が予想される外郭溝のコーナーの位置を明確にすること。
- 4) 史跡西側の道路建設に先行して実施した調査に際し、一部が検出された建物の規模を明確にする。

調査の結果、以下に述べるような事が判明した。

①柱列の南側の延長状況については、調査範囲内では、一直線に延び、コーナーは検出されなかった。史跡南側に一部が及んでいると考えられる。②西門北側では、南側のような柱列は検出されなかった。しかし、これまでの、区画整理事業に伴う調査の成果によれば、北辺・北東のコーナー・東辺の一部・南大門西側等で柱列が検出されており、当該部分のみ開放されているという景観も想起しがたい。したがって、別の構造による区画を考える必要もある。実際、この部分からは③直径20cm前後の小ピットが検出されている。ただし、並び方の規則性は必ずしも明瞭ではなく、わずかに2個一組の可能性を有するに留まる。このわずかな可能性のみを抛り所にして築地塀の寄柱の痕跡と考えることも不可能ではないが、現時点においては保留せざるを得ない。

④西門の北方に建物跡が存在することは、道路の建設に先行する調査の際に明らかとなっていたが、今回その東側が検出された。位置的には、存在が予想される僧坊の真西にあたり、四脚門の可能性もある。

⑤寺域の外郭溝に関しては、西側道路にほぼ接する位置で検出された。深さは2m弱である



上総国分寺（僧寺）主要堂舎配置図

が、上端幅については、西側が現道の下に及んでおり、不明である。また、⑥神門3号墳北東に予想されたこの溝のコーナーは、予想通りに検出され、この外郭溝が、同古墳を避けるかたちで設定されたことが明らかになった。ただし、⑦この溝の西側の延長部分についてはかつて試掘されたことがあり、その際には溝が検出されていないことから、そのまま西に延びるのではなく、もう一度屈曲するか、或いは途中で切れる可能性がでてきた。新たな問題点として指摘しておきたい。

今回の調査の結果、上総国分寺の伽藍地の区画がほぼ確定したことになる。また、いまさら指摘するまでもないことであるが、講堂の主軸の方向は外郭溝の方向にほぼ一致するのが認められるのに対し、それ以外は柱列の方向にほぼ沿っているように見受けられる。これが建立の時期の相違によるものとはただちに断定はできないであろうが、そういった想定も可能ではないかと思われる。また、金堂の中心は、想定される板塀四隅の対角線の交点にほぼ一致することも今回の調査の結果、明らかになった。

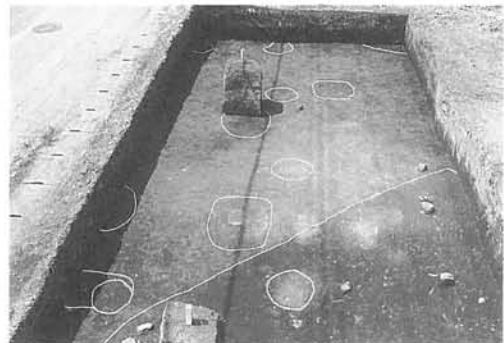
なお、蛇足ながら付け加えておくと、金堂南側を通り、戸隠神社の北側を通り、村上方面に向かう道が成立するのは、板塀の倒壊あるいは国分寺の廃絶以降と、解さざるを得ないであろう。

上述のような主要な遺構のほかに、奈良時代後半の住居跡が検出され、溝状遺構も数条検出されている。住居跡については、伽藍地区画の内部に存在するところから、寺の造営に関わるものと思われる。溝については、外郭溝を凌ぐものはないが、硬化面等、道路としての使用の痕跡も認められず、何らかの区画を意図したものと考えられるが、現段階ではそれ以上の性格規定は困難である。

なお、国分寺とは時期を異にするが、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての集落が確認されている。おそらく、神門古墳群に伴う集落の一部と思われる。また、外郭溝のコーナー付近において、近世の埋葬人骨が20体近く検出された。 (高橋康男)



奈良時代後半竪穴住居跡検出状況 (南から)



西門跡北方建物跡確認状況 (南から)

4. 史跡上総国分寺跡（国分寺薬師堂基壇部）

事業名 国分寺薬師堂解体修理に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市惣社911・907-1

調査期間 平成2年4月2日～平成2年5月31日

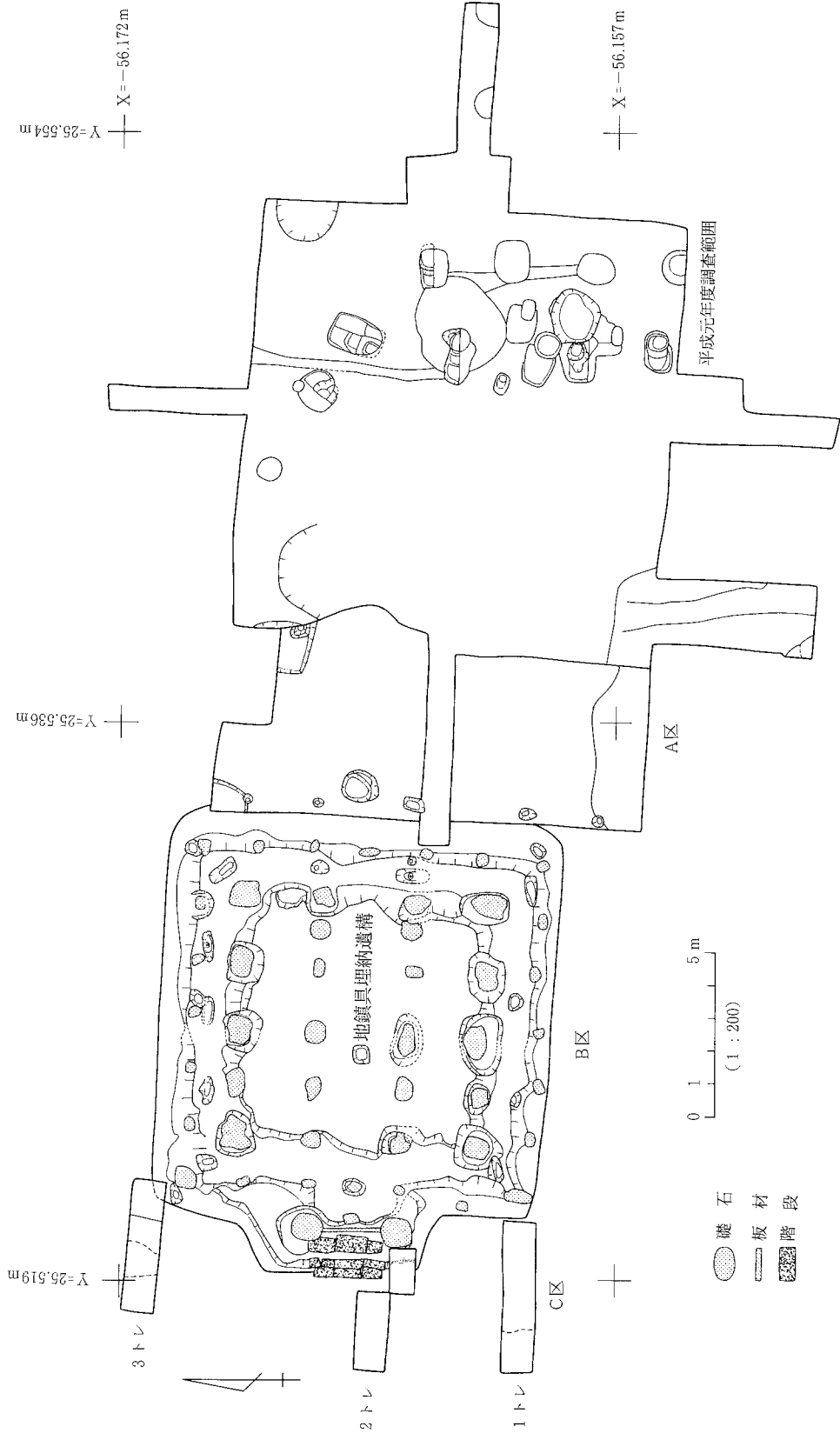
調査面積 260㎡

調査概要 正徳6年（1716年）に建立された市の指定文化財である国分寺薬師堂が老朽化したため、これを解体し修理したうえで、現在の位置の東隣に移築するための事前調査である。昨年度確認調査をおこなった移築予定地の東側の区域と現薬師堂のある間の区域を仮にA区とし、約5m×13mの範囲について上総国分寺当時の遺構の有無の確認をおこなった。薬師堂の基壇部については仮にB区とし、構築面を精査したのち東西・南北方向に7本のトレンチを入れその構築状況について調査した。現薬師堂の西側を仮にC区とし、東西方向に3本のトレンチを入れ、国分寺金堂・講堂間の瓦敷きの参道の確認をおこなった。

A区 調査区域内は基本的に4つの層から成っている。1層は薬師堂の構築土および整地土で、調査区の西側半分で顕著に認められ、東側にいくほど篠竹などによる攪乱を受けるため不明瞭になる。1層中および直下で宝永の火山灰が検出された。調査区全面というわけではなく島状に点在するありかたで、厚いところでは5cmほど堆積している。2層は瓦を多量に含む粘性の強い土で、3層との境界辺りに遺物の集中する傾向がみられる。3層は旧表土。4層はロームの漸移層である。確認された遺構としては、調査区南側より上総国分寺金堂整地土、瓦を多く含む皿状のピット2基、炭化材の入った方形の土坑1基、南北方向に並ぶ薬師堂に関連するピット5基である。遺物は大部分が瓦で、整理箱約150箱ほど出土している。

B区 基壇の表層部を除去し、構築面を確認した。基壇は粘土・ローム・黒土を突き固め、2段構造となっている。礎石は、据え付け穴を有するものと直接基壇上に据え付けたものがあるが、とくにその部分を強化するために坪掘り地業をおこなってはいない。1段目と2段目の間に等間隔に並んだ状況でピットが確認されている。現薬師堂建設に関わる柱穴と考えられる。A区で確認されたピットもこれに対応する位置関係をもっており、もう一回り外側の柱列と考えられる。

次に基壇の構造を明らかにするために東西・南北方向に7本のトレンチを設定し、断面を観察した。この結果、基壇は約1mで基本的に6層からなっていることが明らかになった。1層は粘土・ローム・黒土をほぼ均等に混ぜ合わせたもの、2層は黒土、3層は粘土、4層はロー



調査区全体図

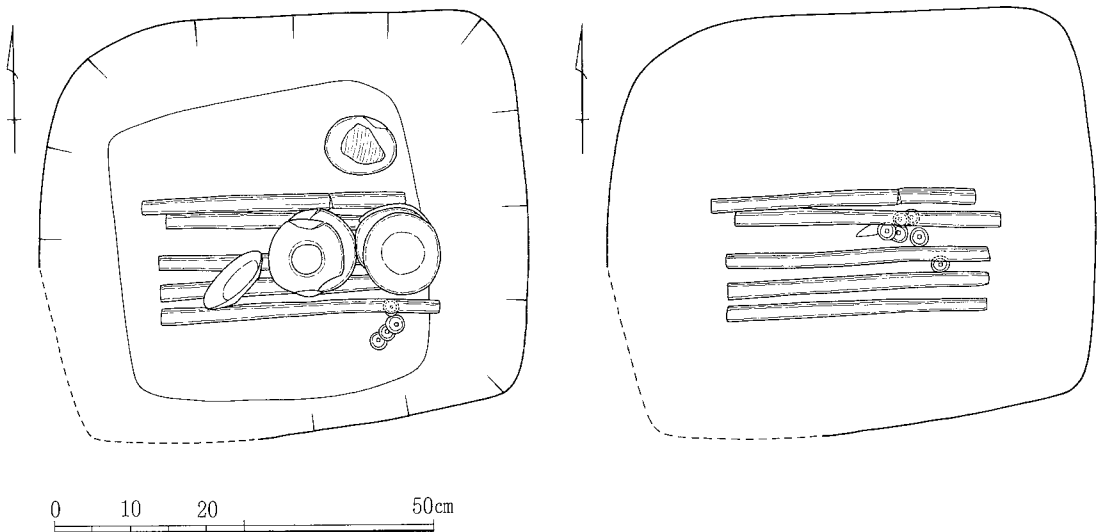
ムを突き固めている。5層は宝永の火山灰を所々に混入する砂質の層、6層は宝永の火山灰層である。さらに基壇中央より南側では、5・6層間に大量の瓦の層がある。厚い所で40cmにおよんでいる。遺物は大部分が瓦で、整理箱50箱ほど出土している。

基壇のほぼ中央部からは地鎮具を埋納した遺構が検出された。65cm×55cmの長方形プランで、深さは約40cmほどである。覆土は砂で、中からはカワラケ（皿）7枚、銭（寛永通宝）13枚、棒状木製品5点が検出された。5点の棒状木製品を横に並べ、その上にカワラケ7枚と銭13枚が置かれたかたちで出土した。砂によって埋められていたために、木製品も良好な状態で検出することができたが、この製品は長さ35cmに切り揃えられた太さ2cmほどの棒で、一方の先端部には5～6cmほどの長さのスリットが入っており、何かを挟んでいたものとみられる。薬師堂建設に伴う地鎮祭に際して、使用された道具類を一箇所にまとめて納めたものと思われる。

C区 3トレンチは昭和47年に上総国分寺を調査した際のトレンチを再発掘したものである。1・2トレンチでは現地表下10cmから全面に多量の瓦が検出された。1トレンチでは西端に粘土の面があり、この東端が国分寺金銅堂・講堂間瓦敷参道の西端である可能性がある。2トレンチの東端に瓦を南北に並べた部分が検出された。瓦敷参道の東端とみられる。

遺物は大部分が瓦で、整理箱40箱ほど出土している。

（忍澤成視）



地鎮具埋納遺構内遺物出土状況（左：上面，右：下面）

市内遺跡発掘調査

平成2年度の国費・県費補助事業市内遺跡発掘調査としては、以下の6遺跡が対象となったが、詳細は忍澤成視 1991『平成2年度 市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会を参照されたい。

5. 姉崎東原遺跡 B 地点

事業名 市内遺跡群発掘調査

所在地 市原市姉崎東原2713-3.4, 2715-1.2, 2714, 2716

調査期間 平成2年7月9日～平成2年7月23日

調査面積 3,587.09㎡のうち358㎡（確認調査）

調査概要 民間事業者の宅地造成に伴う発掘調査で、工事に先行して遺跡の範囲・状況を把握した。遺跡は姉崎天神山古墳の南約100mの地点に位置する。今回の調査範囲の北東部に隣接する地点を、昭和62年度に姉崎東原遺跡として調査している関係で対象地をB地点と呼ぶ。昭和62年度の調査では、弥生時代の住居址3軒・古墳時代の住居址1軒・古墳3基・時期不明の住居址1軒が検出されており、今回のB地点の調査でも同時期の遺構・遺物の存在が確認でき、古墳を含む弥生時代から古墳時代にかけての同一集落の一部であることが明らかとなった。

6. 南岩崎多田良遺跡

事業名 市内遺跡群発掘調査

所在地 市原市南岩崎字多田良677-10

調査期間 平成2年7月24日～平成2年7月31日

調査面積 1,255㎡のうち125㎡（確認調査）

調査概要 町会自治会の町会広場整備工事に伴う発掘調査で、工事に先行して遺跡の範囲・状況を把握した。遺構としては、弥生時代後期の住居址1軒・時期不明の道路状の溝2条・直径約4m・高さ70cmほどの塚1基である。遺物としては弥生時代後期の住居址に伴う数点の大形の土器片の他は、同時期の土器の小破片数点と縄文早期燃糸文系土器の破片数点を検出したにとどまる。

7. 草刈尾梨遺跡

事業名 市内遺跡群発掘調査

所在地 市原市草刈字尾梨193-4.5, 194-6

調査期間 平成2年10月1日～平成2年10月8日

調査面積 449.936㎡のうち45㎡（確認調査）

調査概要 民間事業者のガソリンスタンド拡張に伴う発掘調査で、工事に先行して遺跡の範囲・状況を把握した。昭和59年度に今回の調査区の南東に隣接する地区を潤井戸西山遺跡として調査し、弥生時代中期の環壕集落の一部、古墳時代の集落、歴史時代の住居址・掘立柱建物・四脚門を伴う柵列塀などが検出されたが、今回の調査でもこれらに関連する時期の遺構・遺物の存在が確認された。

8. 安久谷向ノ岱遺跡

事業名 市内遺跡群発掘調査

所在地 市原市安久谷字向ノ岱174-1, 180

調査期間 平成2年10月9日～平成2年10月17日（確認調査）

平成2年10月18日～平成2年11月7日（本調査）

調査面積 1,773.76㎡のうち177㎡（確認調査）

建物建設部分226㎡（本調査）

調査概要 個人による専用住宅建設に伴う発掘調査で、工事に先行して遺跡の範囲・状況を把握した。遺跡は昭和47年度に調査され弥生時代の環壕集落と古墳群を検出した江古田上原台遺跡（南総中学遺跡）と同一台地上に存在するが、字名によって安久谷向ノ岱遺跡として区別した。検出された遺構としては、縄文前期の土坑1、弥生時代の住居址3・方形周溝墓1、古墳1、時期不明の土坑3基・溝1条がある。今回の確認・一部本調査の結果、昭和47年度の南総中学遺跡の調査で明らかになった北東側台地部に展開する弥生時代の墓域がさらに西側にも展開し、また居住域の一部も存在することが確認でき、当台地上における弥生時代の環壕集落内での居住域と墓域の占地的変遷をとらえるうえで貴重な資料を加えたことになる。また縄文時代の遺構としては土坑1基が確認されただけであったが、遺物的には遺構外や他の時期の遺構内から比較的多く出土しており、前期を主体とする時期の集落が同一台地上に展開しその一部がその後の時代の遺構によって壊されている可能性が指摘できる。

9. やま だ ばし おもてみち 山田橋表通遺跡

事業名 市内遺跡群発掘調査

所在地 市原市山田橋字表通173-1ほか

調査期間 平成2年11月8日～平成2年11月27日

調査面積 1,860㎡のうち186㎡（確認調査）

調査概要 民間事業者のガソリンスタンド建設に伴う発掘調査で、工事に先行して遺跡の範囲・状況を把握した。昭和60年度に道路建設にともなって調査された山田橋表通遺跡の西側に隣接する地点の調査である。この調査では弥生時代後期から古墳時代前期の集落の一部と古代官道の一部が検出された。また、今回の調査区の国道297号線を挟んで西側の畑地には縄文時代の地点貝塚である山田橋亥の海道貝塚が存在する。調査の結果、調査区の北辺部に奈良・平安時代相当の遺構が存在するものの、その主体は縄文中・後期であることが明らかとなった。調査区のほぼ中央部には北側からのびる埋没谷が存在し、これを埋める土層中には縄文中・後期の遺物が多量にふくまれている。また調査区の南西隅には地点貝塚を確認することができ、亥の海道貝塚の東側地点をとらえることができた。

なお確認調査の結果をふまえて、今回の調査対象地のほぼ全域を本調査することになり、平成3年3月1日より調査が開始された。詳細については次年度の年報で明らかにする。

10. やま き しら ふね じょう あと 山木白船城跡

事業名 市内遺跡群発掘調査

所在地 市原市山木字外白船1289-1.3, 1290

調査期間 平成2年11月28日～平成2年12月10日

調査面積 850㎡のうち85㎡（確認調査）

調査概要 民間事業者の宅地造成に伴う発掘調査で、工事に先行して遺跡の範囲・状況を把握した。西方約2kmに東京湾を望む標高約20mの独立丘陵上に遺跡は立地する。過去4回にわたる調査の結果、城郭北端部の主郭・帯郭・腰郭が確認されている。今回はこれまでで最も南側の部分の調査である。調査は平坦部と斜面部に分けておこなわれたが、上位平坦部からは2基の堀状の遺構が、上位平坦部から斜面部にかかる部分で土塁の痕跡が、斜面部と下位平坦部からは階段状の造成面が確認された。

（5～10 忍澤成視）

11. 村上遺跡群

事業名 上総国府推定地確認調査

所在地 市原市村上字後口1159-1他

調査期間 平成3年3月1日～平成3年3月30日

調査面積 516㎡

調査概要 上総国府の所在地については、未だに確定していない。が、その推定地の一つに村上地区がある。同地区では、東関東自動車道の建設に伴う埋蔵文化財調査が進行中（千葉県文化財センター東関東市原事務所）であり、今回調査を実施した後口地区ならびにやや南側の白幡前地区において、8世紀段階以降の建物群の存在が明らかにされてきている。また、これらの調査結果から、村上遺跡群内に官衙の存在が考えられるようになってきている。

本年度の調査は、千葉県文化財センターが発掘調査を実施している村上遺跡（後口地区）に隣接する畑地（調査時における現況は荒蕪地）で行った。調査区の立地は、標高7m前後の養老川右岸沖積地上にあっている。

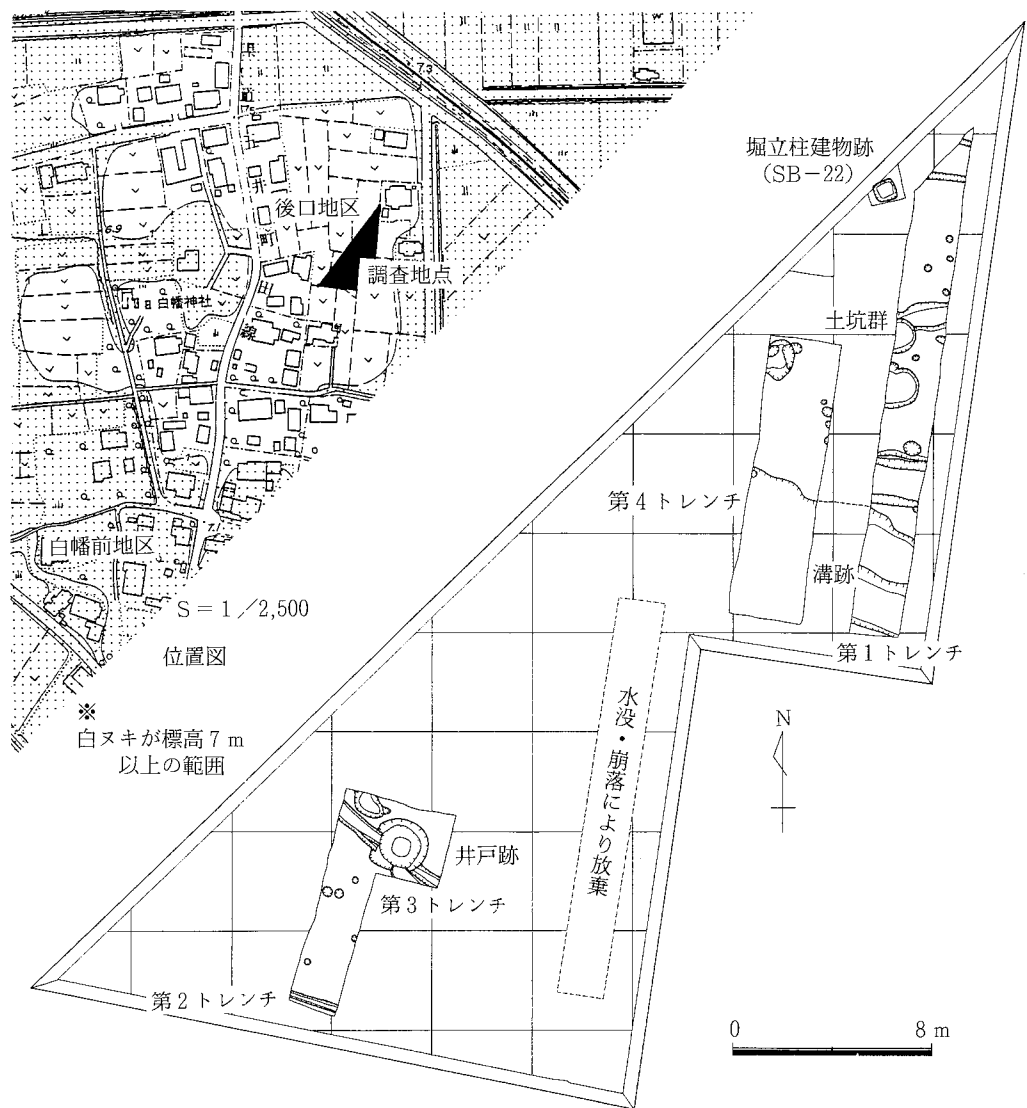
隣接地の調査結果を踏まえ、（1）県文化財センター調査対象側で検出された掘立柱建物群の広がる範囲を把握することによって、建物群の配置の在り方をより明確なものとする。こと。（2）既に検出されている東西方向の溝の延長線において、その有無と方向を確認すること。（3）この溝を挟んだ南側の遺跡の状況を把握すること。以上3点に主眼を置いて調査を進行させた。

調査の方法としては、トレンチによることを原則とし、必要に応じて若干の拡張を行った。トレンチ設定の方向は、調査地の方向に合わせることにした。

検出された遺構は、溝数条・井戸跡1・掘立柱建物1棟・ピット群一カ所であった。遺構の配置は、図示したとおりである。

以下、上記の調査視点に基づいて、調査成果を略記しておく。

- （1）村上遺跡（後口地区）検出の掘立柱建物群に関連する遺構は、東南に検出された2間×2間の掘立柱建物（SB-22）の南東の隅柱跡一ヶ所に過ぎなかった。
- （2）掘立柱建物群南側に東西方向で走る数条の溝の延長線は、当初の予想よりやや南側で検出され、さらに東側へ延びていることも明らかとなった。これらの溝については、数次の掘り直しが確認されている。また遺構底面から、須恵器の水瓶や布目瓦が出土している。しかし、溝の時期を明らかにすることはできなかった。なお、この溝の北側には掘込みの浅いピット群が検出されており、8世紀後半代の土師器がまとまって出土している。須恵器の出土も観られたが、その頻度は低い。



平成2年度上総国府推定地確認調査 (村上遺跡群・セ-132)

(3) 溝の南側には、掘立柱建物群の配置が観られなかった。検出された遺構は、井戸跡と溝ならびにピットである。井戸跡覆土上層より8世紀代の土師器が出土しているが、底面からの遺物の出土は観られず、遺構の廃絶時期を明らかにすることはできなかった。

以上が、調査概要である。今回の調査でも、国府の存在を直接的に証明する遺構や遺物の発見を観ることはできなかったが、上総国府解明のための、細やかではあるが、重要な資料を追加することができたと考えている。調査ならびに原稿執筆にあたって、千葉県文化財センター東関道市原事務所から、資料の提供等、多大な協力を得ている。

[後口地区の遺構について]

ここでは、調査区北西で検出された掘立柱建物を手がかりとして、当該地区の掘立柱建物群とそれを取り巻く溝の性格について簡単に整理しておく。

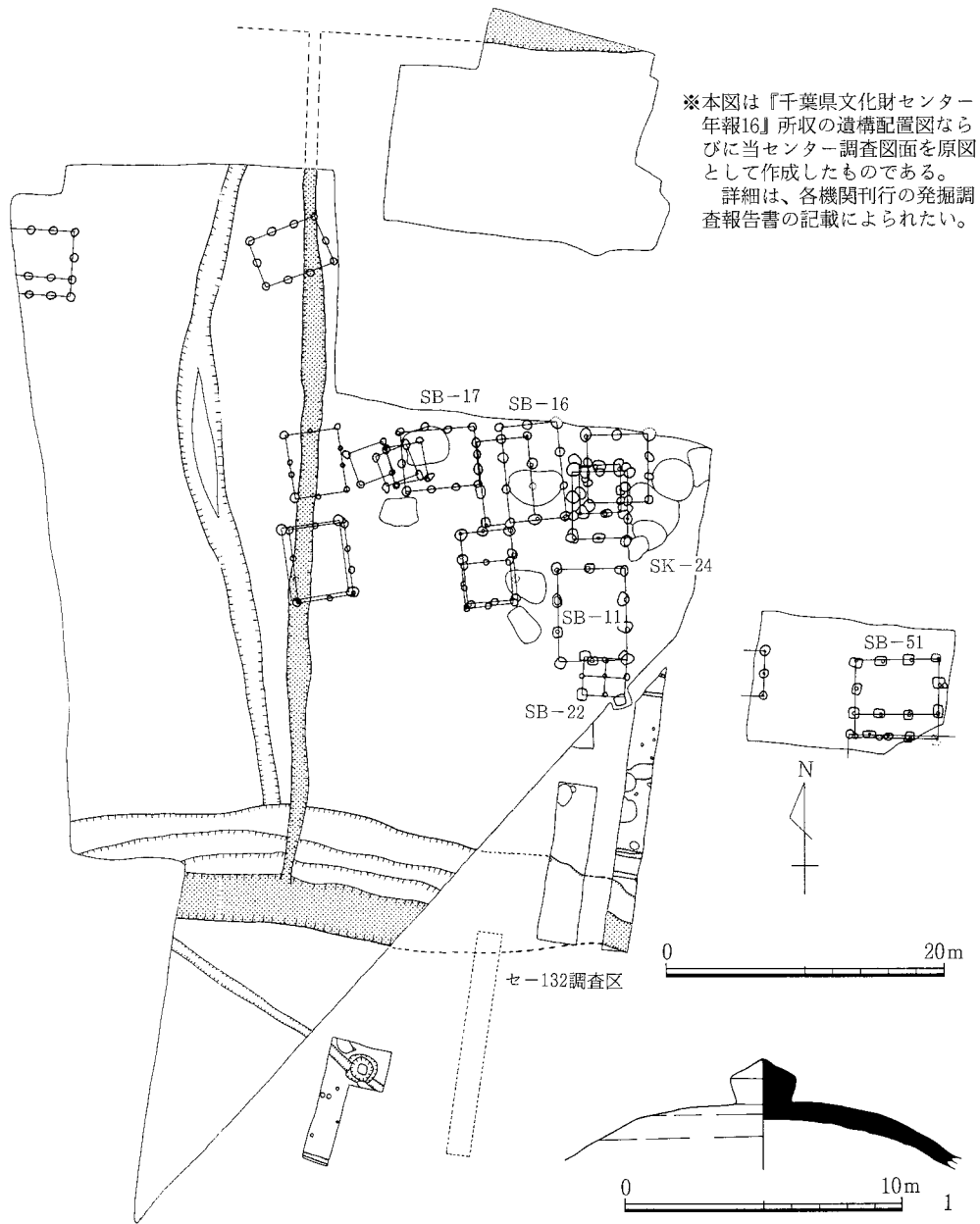
今回の調査で検出した掘立柱建物の柱跡は、県文化財センターの調査で既に検出されている2間×2間の掘立柱建物（SB-22）の南西隅柱である。この建物は、隅柱の掘り方が大きい総柱の建物であり、座標北に対しほぼ正方位をとる掘立柱建物群（SB-11/SB-51など）の一つであるSB-11（南北棟・2間×3間）南側に接している。『千葉県文化財センター年報No.16』掲載の平面図（笹生衛・1991）にみる柱掘り方の切り合い関係では、SB-11に先行する建物と考えられる。隅柱の柱掘り方の形状ならびに規模は、東側の調査区で検出されている掘立柱建物SB-51（東西棟・2間×3間・南側前面に廂を有する）に近似しているものと考えられるが、SB-51の北側柱列とSB-11の南側柱列が一直線上に並び、この2棟が併存したことを示唆している。これらを考慮すると、その変遷に大きな時間的隔たりを想定しにくいもののSB-22→SB-11・SB-51と整理できる。現在のところ、後口地区において知られる、唯一の総柱建物である。

当該地区における掘立柱建物の広がり、調査区の北と南とで検出されている東西方向の溝によって挟まれた範囲に限定されているようである。また、その変遷については、既に、N～5°～Wの方位をとる西側の掘立柱建物群（SB-16/SB-17等以下、Ⅰ期建物群と呼ぶ）が、SB-51等正方位のもの（以下、Ⅱ期建物群と呼ぶ）に先行するとの報告がなされている。今回の調査結果からも、掘立柱建物群の南側溝を越えたエリアに、建物群の展開を窺うことはできなかった。微高地上の立地である以上、排水施設の確保は当然の事であろうが、と同時に、これらの溝が土地の利用計画における何等かの区画を意味していたであろうことは、十分に考えられるところである。SB-17西側でⅠ期建物群と重複関係を持つ南北方向の溝の存在は、このことをさらに裏付けている。即ち、Ⅱ期建物群の分布はこの南北方向の溝以東に偏向しており、かつ溝の方向が総柱の建物SB-22の方向に極めて近いことを指摘することができる。従って、SB-22の段階以降において掘立柱建物群が西側から東側へ移動したものであろう。Ⅱ期建物群の配置は、先にSB-22、SB-51、SB-11の関係に観たごとく計画性をもって進められた可能性がある。従って、Ⅰ期建物群と重複関係にある南北の溝を、Ⅱ期建物群の西側区画溝として捉えることが許されるならば、村上地区（後口地区）は、方形の区画溝で囲まれた官衙とみることができよう。Ⅱ期の成立をもって官衙の「成立」とみるか、Ⅰ期からⅡ期への変遷をその「整備」とみるかは、資料の増加を待つこととしたい。

なお今回の調査において、総柱建物の柱掘り方内部より8世紀後半の所産と考えられる擬宝珠形の摘みを有する須恵器杯蓋（前掲指図右下のもの）が出土している。一方、SB-51からは、K-14段階の緑釉単彩陶器の碗が出土している（笹生衛・1991）。K-14段階を820～840年に比定する説（斎藤孝正・1994）に従うとするならば、9世紀第2四半期を下限とする時期までに、掘立柱建物群が西から東に移動したものと考えられよう。この時期は、古代官道に面して官衙の建物群が展開する稻荷台遺跡の成立時期にあっており、また、上総国分尼寺の伽藍変遷ではB-Ⅲ期、即ち、掘立柱建物から礎石建物へと建替えられた「上総国分寺再建期」にあっている。

村上遺跡群（後口地区）におけるⅠ期建物群からⅡ期建物群への変遷についても、平安時代初等の画期のなかで捉えられるべき事象の一つと観ることができよう。初期国府の探求と併せて、注目すべき視点であり、本文において「上総国府解明のための、細やかではあるが、重要な資料を追加することができた」と結んだ所以でもある。

（田所 真）



村上遺跡群（後口地区）関連図

〔参考資料等〕

- 浅利幸一 1987 「2 市原市稲荷台遺跡」『房総における歴史時代土器の研究』
- 斎藤孝正 1994 「1 東海地方の施釉陶器生産—猿投窯を中心に—」
 『古代の土器研究—律令的土器様式の西・東3 施釉陶器—』
- 笹生 衛 1991 「(3) 市原市村上遺跡（村上遺跡群）」
 『千葉県文化財センター年報No.16』 財団法人 千葉県文化財センター
- 高橋康男 1991 『平成2年度 上総国府推定地確認調査 村上遺跡群における確認調査概要』

12. 大^{おお}厩^{まや}浅^{せん}間^{げん}様^{さま}古墳

事業名 宅地造成（大厩地区）に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市大厩字川上1395-1他

調査期間 平成2年4月1日～平成2年6月30日

調査面積 1,430㎡（本調査）

調査概要 大厩浅間様古墳の調査は、昭和59年度に着手されたが、埋葬施設等の調査を実施したのち中断していた。今回は、平成2年1月から継続調査であり、主に墳丘部および下層を対象としておこなわれた。

大厩浅間様古墳は、墳丘裾部南北径約45mを測る前期の円墳である。村田川左岸の前期古墳は、他に、前方後方墳と推定されている新皇塚古墳、前方後円墳の大厩二子塚古墳が知られているが、これらの首長墳は、それぞれ墳形を変え、群集することなく点在している。

昭和59年度の調査では、3基の埋葬施設が検出されたが、これらはいずれも無墓坑の割竹形木棺の直葬と考えられている。このうち1号主体部は、主軸長10.7mを測る長大なものであり、珠文鏡1、石釧1、刀子1のほか、瑪瑙製勾玉、琥珀製勾玉、琥珀製棗玉、管玉、ガラス製小玉など多量かつ多様な玉類の出土をみている。また、2号主体部からは、鉄剣1、ガラス小玉、滑石製白玉、3号主体部からは、ヤリガンナ2、滑石製白玉が出土している。今回の調査にかかわる盛土部分は、厚さ6.95mに達し、4回の工程から築かれていたことが判明した。

その、下層遺構は、弥生時代中期の方形周溝墓4基、弥生時代後期の竪穴住居跡9軒、古墳時代前期の竪穴住居跡2軒、時期不明の土壇および土壇墓7基、V字溝2条である。竪穴住居跡については、旧表土面において摺鉢状の落ち込みが認められたものがあった。遺物としては、方形周溝墓3基より壺形土器が、弥生時代後期の竪穴住居跡より銅釧片が出土していることが特筆される。

下層遺構のうち、V字溝については、環濠である可能性が想定されている。村田川流域における環濠集落の確認例は、草刈遺跡、菊間手永遺跡、菊間遺跡、大厩遺跡、西山遺跡につぐものであり、また、平成5年度には、菊間遺跡に隣接する菊間深道遺跡でも検出され、弥生時代中期宮ノ台式期を中心とする環濠集落群の分布はさらに密なものとなりつつある。

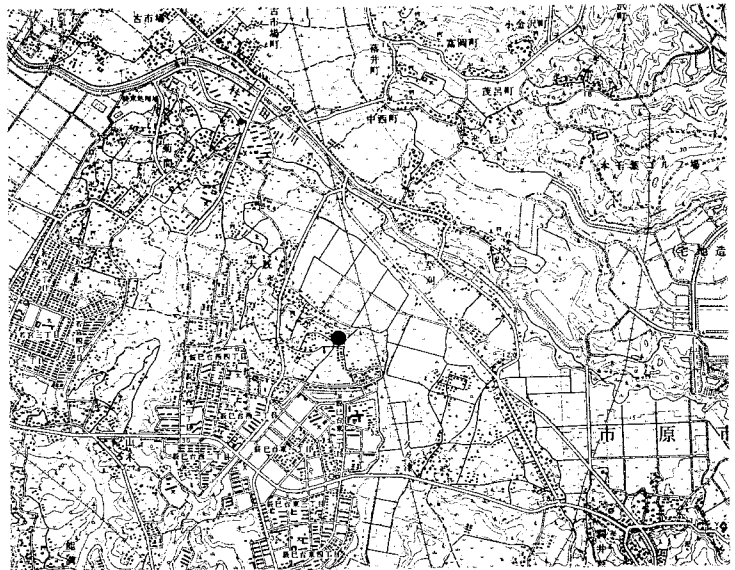
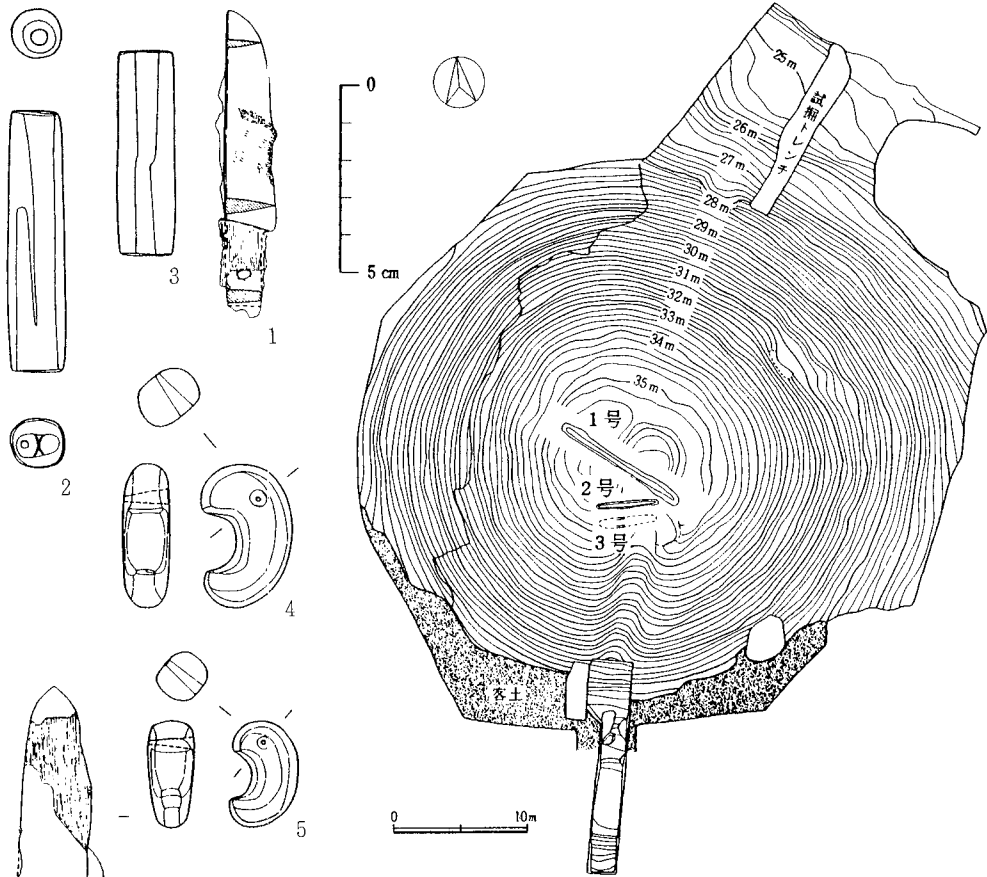
本遺跡の調査の概要については、下記文献によられたし。

（大村 直）

浅利幸一「（大厩）浅間様古墳」『市原市文化財センター年報 昭和59年度』1985年

浅利幸一「大厩浅間様古墳」『平成2年度千葉県遺跡調査研究発表会発表要旨』1991年

浅利幸一「大厩浅間様古墳」『第6回市原市文化財センター遺跡発表会要旨』1991年



1~5 1号主体部 (1. 刀子 2・3. 管玉 4・5. 瑪瑙製勾玉)
 6 2号主体部 (劍)
 7・8 3号主体部 (ヤリガンナ)

(1:50,000)

大厩浅間様古墳と出土遺物

13. しいづちゃのき 椎津茶ノ木遺跡

事業名 宅地造成（椎津地区）に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市椎津545

調査期間 平成2年2月1日～平成2年8月31日

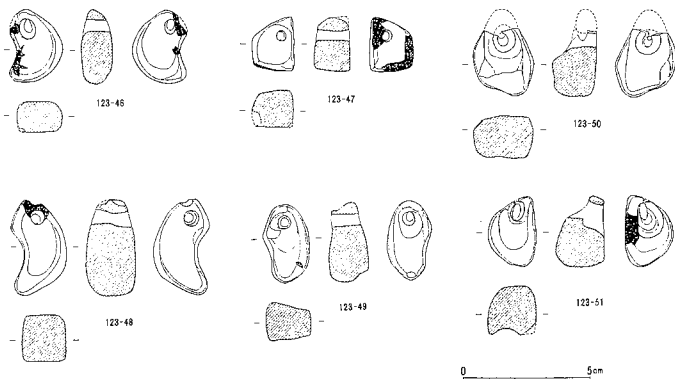
調査面積 2,639㎡（本調査）

調査概要 市原市の西端JR姉崎駅の南西方750m、標高30m程の台地上北端部に位置する遺跡で、遺跡の北方には東京湾を眼下とし、東側には椎津川を挟んで姉崎神社の森を望むことができる。また、当地は椎津城の一角を占め、北側に隣接して石枕の出土が伝承されている椎津稲荷山古墳が現存している。

今回の調査は、宅地造成に伴う埋蔵文化財調査として実施したもので、調査の結果、縄文時代～奈良・平安時代にわたる総数200基を超える各種の遺構・遺物が検出されているが、調査面積に比べ検出遺構数が多く、図に見るように検出遺構の殆どが住居跡で、重複が著しい。

縄文時代の住居跡は4軒検出されているが、時期の決定できるものは2軒で、いずれも加曽利B式期に比定されている。弥生時代の住居跡は中期7軒、後期10軒の計17軒が検出され、古墳時代前期に位置づけされる住居跡は9軒と縄文時代～古墳時代前期にかけての住居跡はそう多くはないが、古墳時代中期以降に位置づけられる住居跡が多く、古墳時代終末期に至るまでの間に住居の建て替えが頻繁に行われていた様子が見てとれ、住居の重複関係から見ると大凡10年前後に一度の割合で建て替えが行われていた可能性がある。

住居跡以外の遺構では、調査区域の北端で椎津稲荷山古墳の周溝を一部検出している。周溝は検出された部分から見ると、幅10m前後、深さ1.6m前後の規模を持つもので、円弧状を呈している。また、墳形は明らかとはなっていないが、現存する墳丘の高さ7mの規模から考えると、大型の古墳であることには間違いなく、当遺跡の東側に展開する姉崎古墳群の一角を形成する古墳として把握されるものであろう。



出土遺物の中で注目される例として左に掲げた琥珀製の玉類がある。弥生時代後期の長軸長14mの大型住居跡床面上から纏まって出土したもので、破片も含めると10点以上となり、琥珀製品が一つの遺構から多数出土した貴重な例である。（米田耕之助）



椎津茶ノ木遺跡全体図

14. 五所^ご四^{しよ}反^{したん}田^だ遺跡

事業名 白金第2小学校建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市五所字四反田2154

調査期間 平成2年6月1日～平成3年2月7日

調査面積 29,205㎡のうち2,325㎡（確認調査）、5,700㎡（本調査）

調査概要 市原市北部に広がる海岸平野にあり、養老川と村田川のほぼ中間域に位置する遺跡で、標高3mに達しない低地から検出されている。

調査時点では水田として利用されていた所で、市原市立五所小学校が建設されることとなり、建設に先行して校舎や学校施設などの工事区域、影響範囲に限って調査を実施している。

この地域は、市原条里制遺跡内に位置することから、条里制区画水田遺構や市原市阿須波方面から延びる古代官道の検出が予想されていたところである。

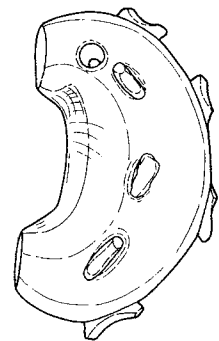
調査の結果、多岐にわたる遺構・遺物が検出されましたが、低湿地遺跡であるため、木製品が多く出土したことも当遺跡の特徴となっている。

時代的には、旧石器時代～奈良・平安時代にかけて様々な遺物類が検出されており、古墳時代以前のものでは、ナイフ形石器、縄文時代土器片、弥生時代土器片などで、遺構として住居跡が1軒、土坑が数基検出されている。

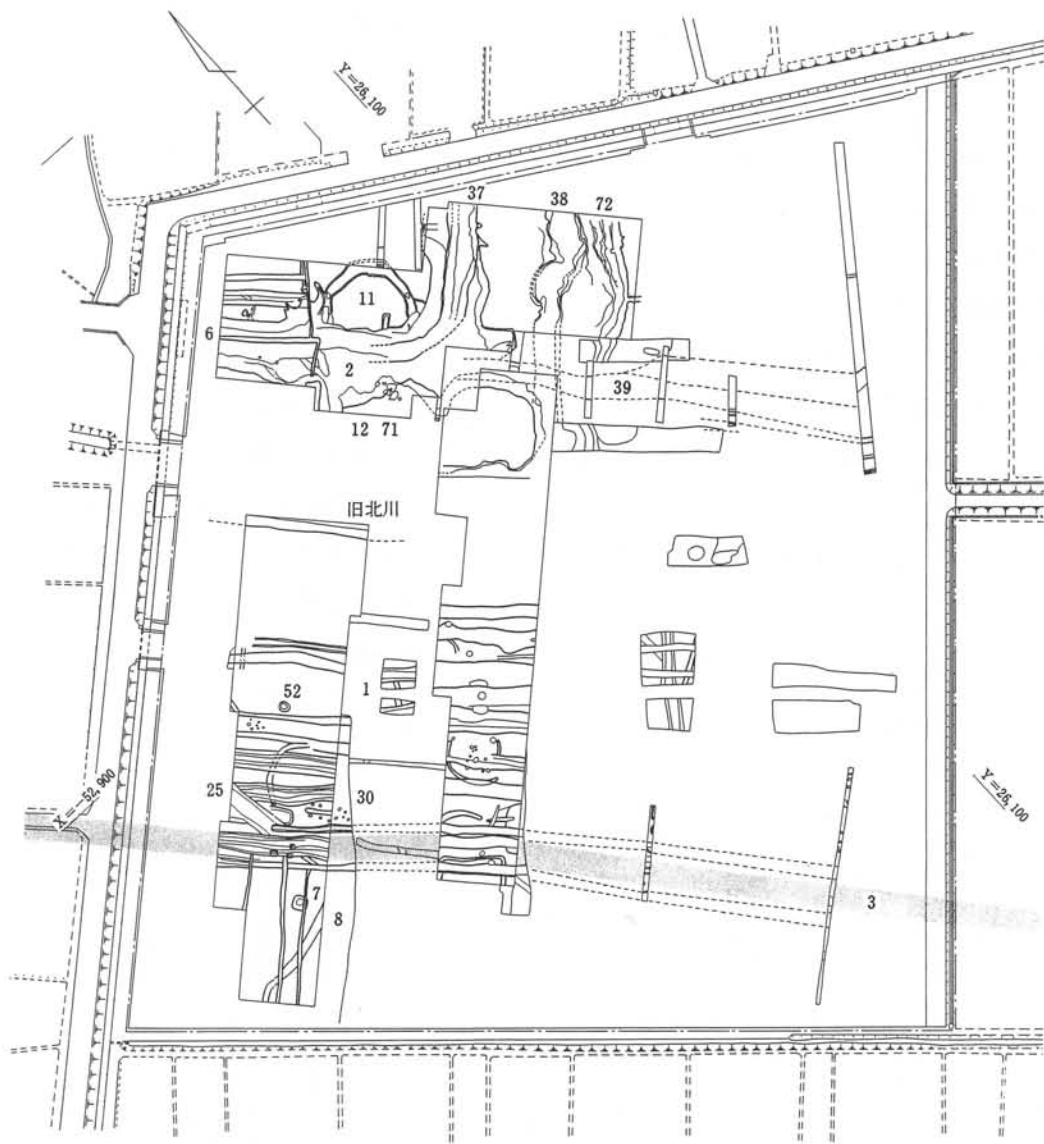
当遺跡の主体となる遺構・遺物は古墳時代の例が多く、遺構には井戸状遺構や溝状遺構が検出され、それらに伴い土器・石器・木製品などが出土している。特に、後期に位置づけられる2号溝から大量の木製品が出土しているが、それらには、建築用材、鋸・鋤・杵・横槌などの農工具や曲物・皿などの器及び、櫛・祭祀用と思われる杖形のものなど様々な木製品が見られる。中でも杖形の木製品は小さな破片も含めると5点出土しているが、その内の1点には黒漆が塗られている。1本の木から削り出したもので、杖の上端部の縦方向の刻みが入っていることが特徴的である。この刻み部分に何か挟み付けて使用したものと考えられる。また、黒漆の塗布は、3点出土している櫛にも見ることができる。

奈良・平安時代に位置づけられる遺構として、幅6mの道路状遺構が検出されている。側溝が付設されているもので、区画整理前まで飯香岡八幡宮の柳樋神事の経路となっていたところにあたる。

この他の溝からは、人形や斎串などの祭祀に関連した木製品も出土している。



（米田耕之助）



古代道路跡

0 50m



五所四反田遺跡の遺構検出状態と出土木製品

15. ^{いそがやたけのした}磯ヶ谷竹ノ下遺跡

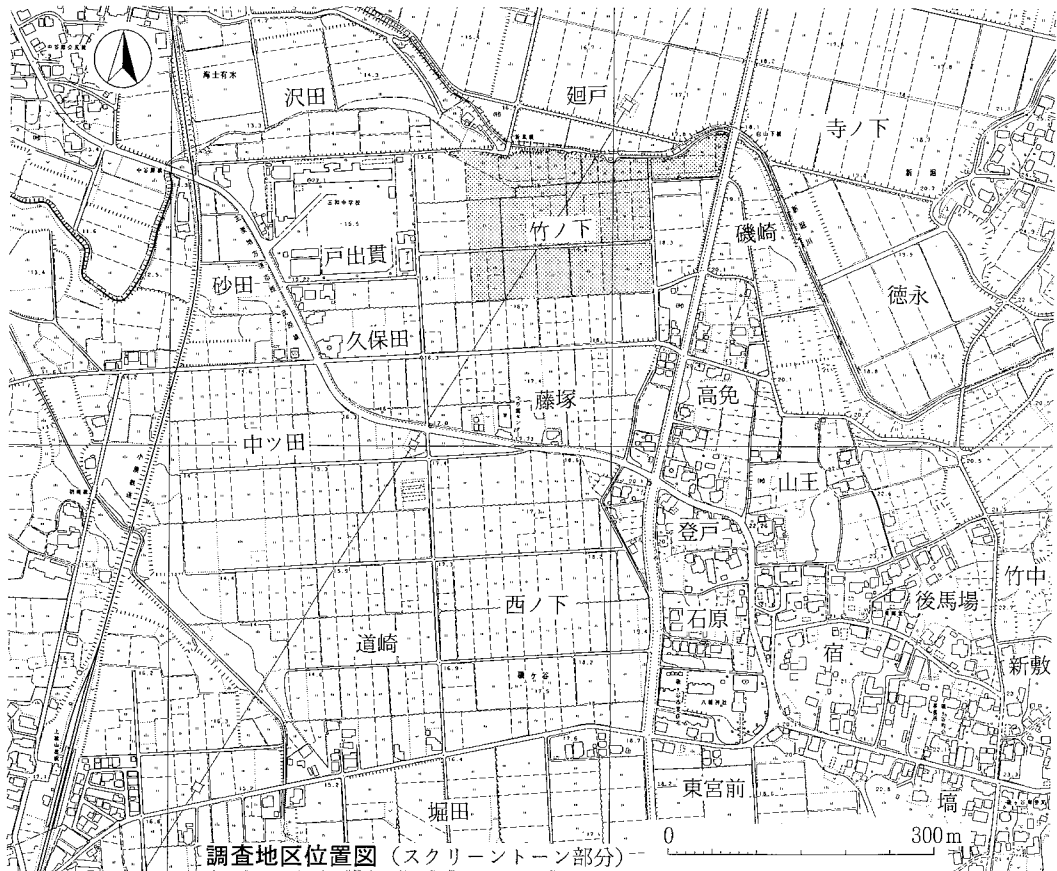
事業名 三和運動広場建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市磯ヶ谷字竹ノ下1067地先他

調査期間 平成2年9月17日～平成2年9月22日

調査面積 35.605㎡（試掘調査）

調査概要 当調査は、いわゆるテストピットで、遺跡の有無を確認することを目的とした。調査地区は、養老川中流域右岸沖積地上で、支流の新堀川左岸の標高約20m程の地域である。調査は、対象地区に29ヶ所のテストピットを設定した。付近は、水田に利用され、土層は、水田耕作土より下は、褐色砂質土・黒色粘土・暗灰色粘土などが堆積する。地山は、調査地区の南東隅だけ検出し、他の地区は、沖積層と見られる。一部に宝永火山灰層が2層～4層で面的に確認されている。遺構は、検出していない。遺物は、下層で植物遺存体が存在するが、人工遺物は出土していない。当地の小字名が「竹ノ下」で、東側磯ヶ谷集落に「宿」「塙」「登戸」などが見られ、道路が「鉤の手」状を示し、近世の陣屋的存在が推定される。（田中清美）



かみ たか ね な な やま 16. 上高根南名山遺跡

事業名 市道6018号線改良に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市上高根字駒野1607-4地先他

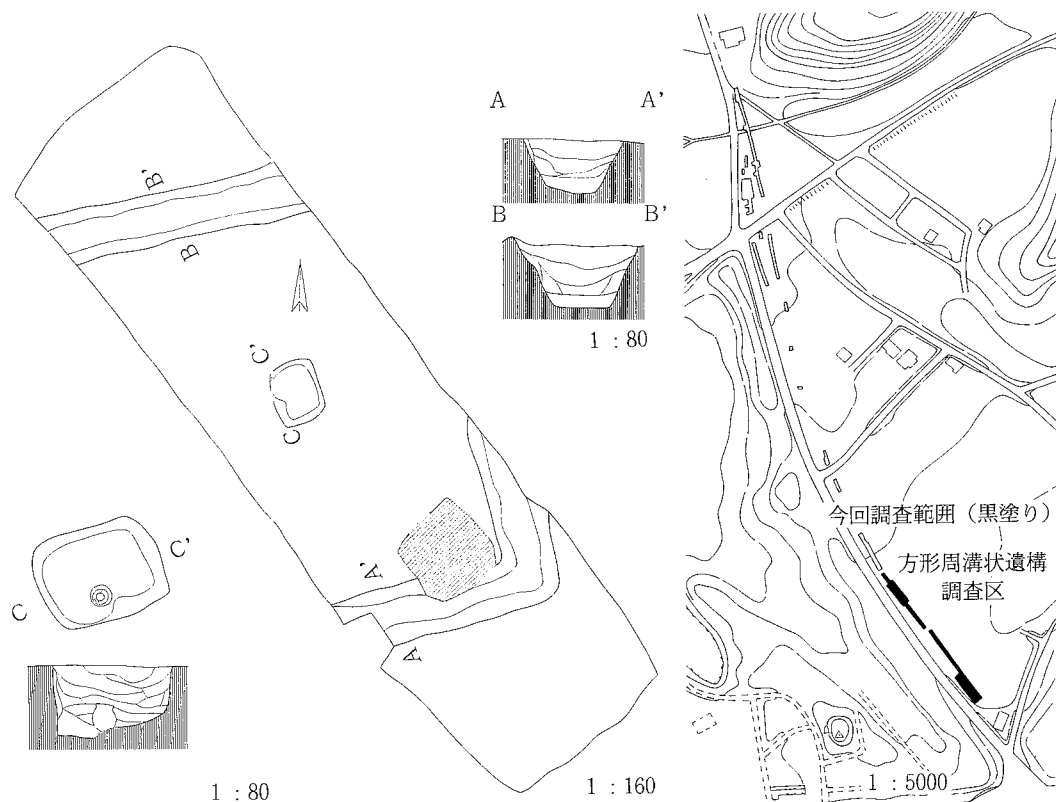
調査期間 平成2年10月1日～平成2年10月31日

調査面積 1,370㎡のうち137㎡（確認調査）、200㎡（本調査）

調査概要 養老川中流域左岸台地上に立地する南名山遺跡は、昭和60年度から平成4年度にかけて5次・6地点にわたり調査が行われた。本年度は、その第3次に当たり遺跡最南端に当たる。南北に長い調査範囲にトレンチを設定して確認調査を行い南端で道路跡が、北端で平行する2条の溝が検出されこの2ヶ所を拡張し本調査とした。北側の溝は周溝幅1.1m、1辺約10mの整った方形周溝状遺構で南北の周溝の一部と南東コーナーを調査した。中央部には東西に長い長方形の主体部があり、内部に蔵骨器が埋納されていた。

本遺跡は、平成7年3月に報告書刊行を予定している。詳細は報告書を参照されたい。

（半田堅三）



第1図 上高根南名山遺跡トレンチ配置図（右）・方形周溝状遺構実測図（左）

17. 六孫王原遺跡（C区・D区）

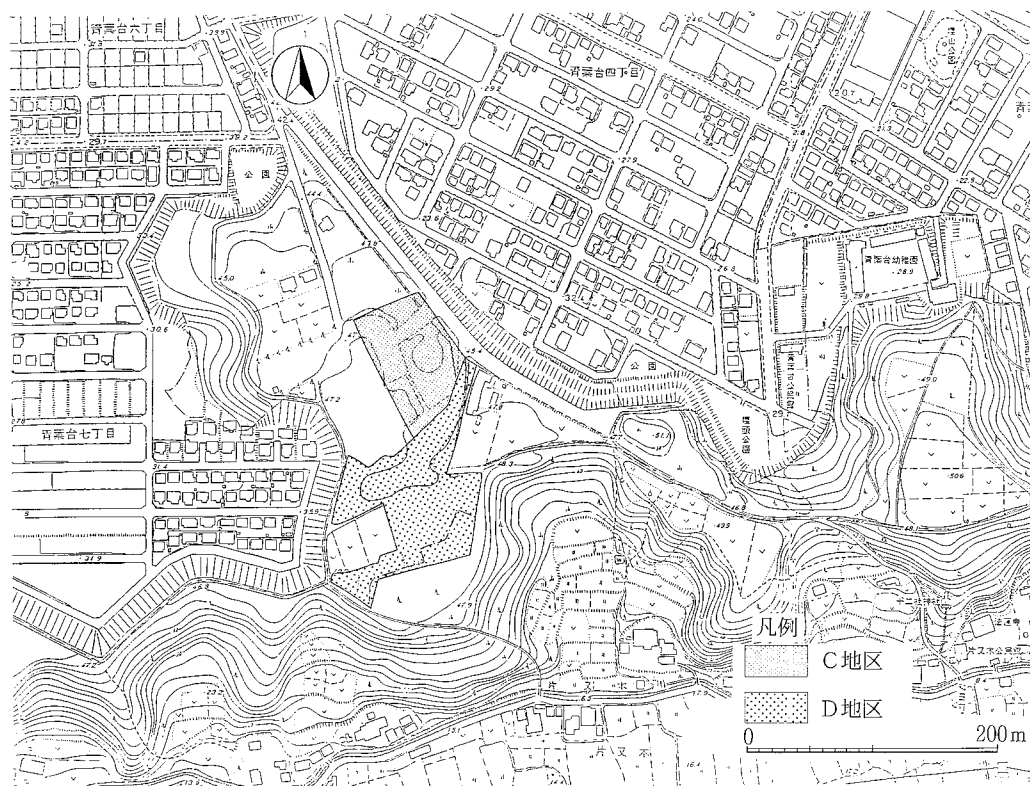
事業名 マンション建設（姉崎地区）に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市姉崎字六孫王原3234地先他

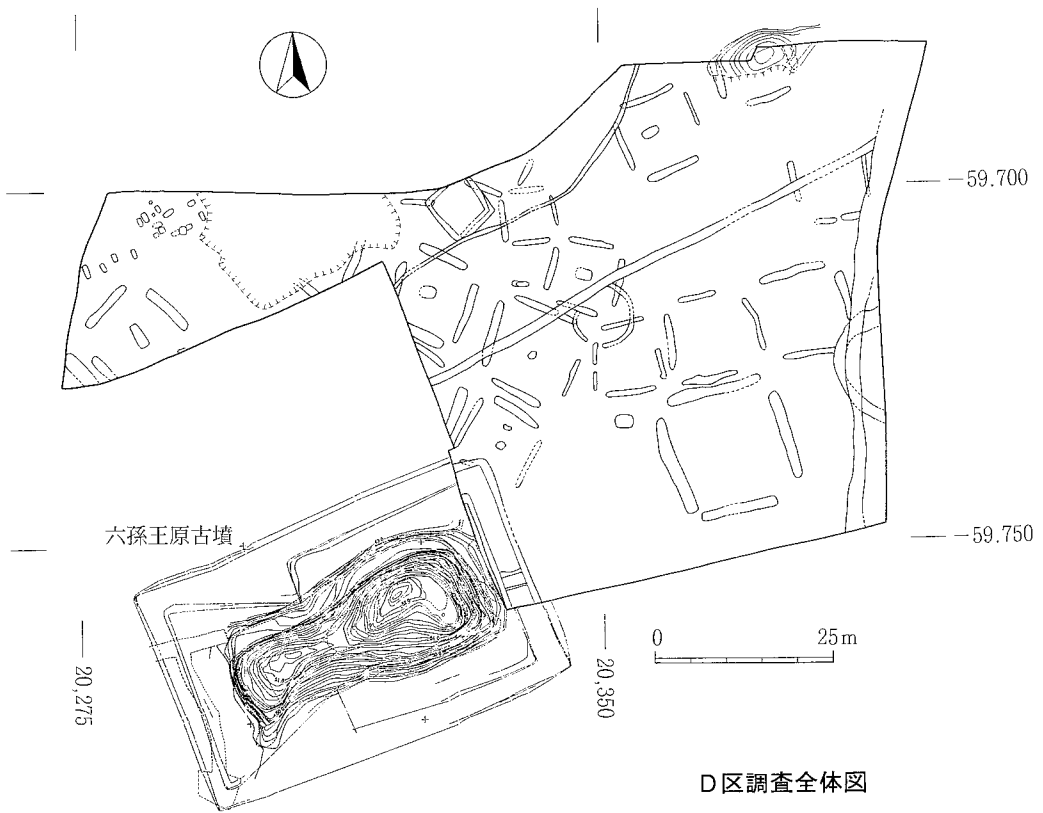
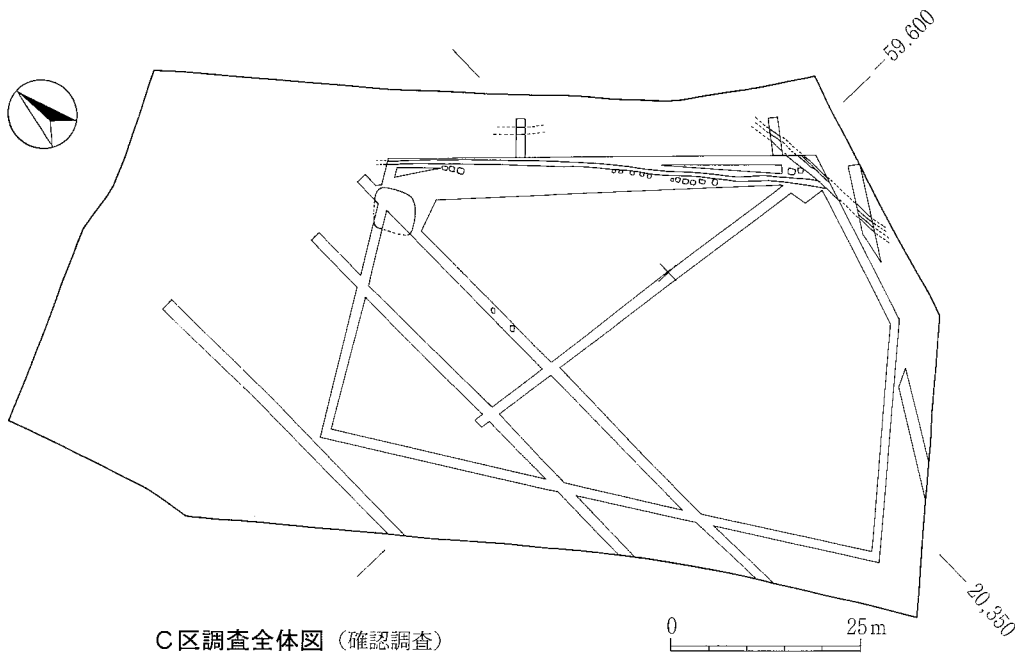
調査期間 平成2年12月26日～平成3年3月30日

調査面積 8,623.36㎡のうち863㎡（C区）、5,200㎡（D区）

調査概要 今回の調査は、C区が確認調査で、D区が本調査である。当地は、東京湾に注ぐ小河川の椎津川右岸台地上で、標高約47m前後を呈する。昭和62年度にA区とB区の調査が既に実施されている（木對和紀 63年度年報）。C区では、弥生時代の竪穴住居跡1軒、奈良・平安時代と推定される溝3条、溝に並列する土坑16基以上、中世土坑2基を確認した。D区では、弥生時代中期宮ノ台期の四隅が切れる方形周溝墓18基、土壙墓2基、後期の方形周溝墓と円形周溝墓各1基、古墳時代中期の円墳周溝の一部、7世紀中頃と推定される前方後方墳の六孫王原古墳の前方部周壕の一部、中近世と見られる溝3条、土坑15基を検出した。弥生時代中期の土壙墓より鉄石英の管玉4点、滑石製管玉6点、勾玉7点が出土した。また、六孫王原古墳の周壕の主軸線上にいわゆるブリッジの存在が確認されている。（田中清美）



調査地区位置図



18. 佐 是 城 跡

事業名 不特定遺跡発掘調査事業（佐是城跡）

所在地 市原市佐是字武城1030-2

調査期間 平成3年1月9日～平成3年2月14日

調査面積 330㎡（確認調査・本調査）

調査概要 佐是城跡主郭部分における個人住宅建設に伴う埋蔵文化財調査である。従って、調査は中近世城跡（佐是城跡）の主郭における建物群の有無と併せて、城跡築城以前の遺構の存在の確認ならびに記録保存を主眼とせざるをえなかった。調査結果は以下のとおりである。

- (1) 縄文時代 中期の埋甕を伴う土坑1基を検出した。
- (2) 弥生時代 3軒の竪穴住居跡を検出した。なお、北端の住居跡覆土中より、当該期の炭化米が発見されている。
- (3) 古墳時代 推定直径26m前後の円墳1基を検出した。この古墳は、現況の主郭部分には納まらないことが予想される。
- (4) 中近世 築城にかかる整地面と、小石集中地点ならびにピット群を検出した。古墳の削平状況に築城段階における大規模土木工事の一端を窺わせている。



佐是城跡遺構配置図

19. 草刈尾梨遺跡

事業名 ガソリンスタンド（草刈地区）建設に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市草刈尾梨193-1 他

調査期間 平成2年12月12日～平成3年1月20日

調査面積 450㎡（本調査）

調査概要 昭和60年に調査された、潤井戸西山遺跡に隣接する尾梨遺跡は弥生時代2基、古墳時代前期2基、後期9基の住居跡、掘立柱建物跡5棟、中世以後の溝3条、江戸時代の墓壇3基の遺構と旧石器から江戸時代にかけての遺物を検出した。

南に隣接する西山遺跡で確認されていた宮ノ台の環濠集落を構成する住居跡を検出したこと、南に四脚門をそなえた方形の柵列が、古墳時代後期以前の居館址であることが判明したことが成果といえよう。

本遺跡は、平成4年3月に報告書が刊行されている。詳細は報告書を参照されたい。

（半田堅三）



第1図 草刈尾梨遺跡全体図

20. 山木白船城跡

事業名 宅地造成（山木地区）に伴う埋蔵文化財調査

所在地 市原市山木1290番地

調査期間 平成3年2月20日～平成3年3月18日

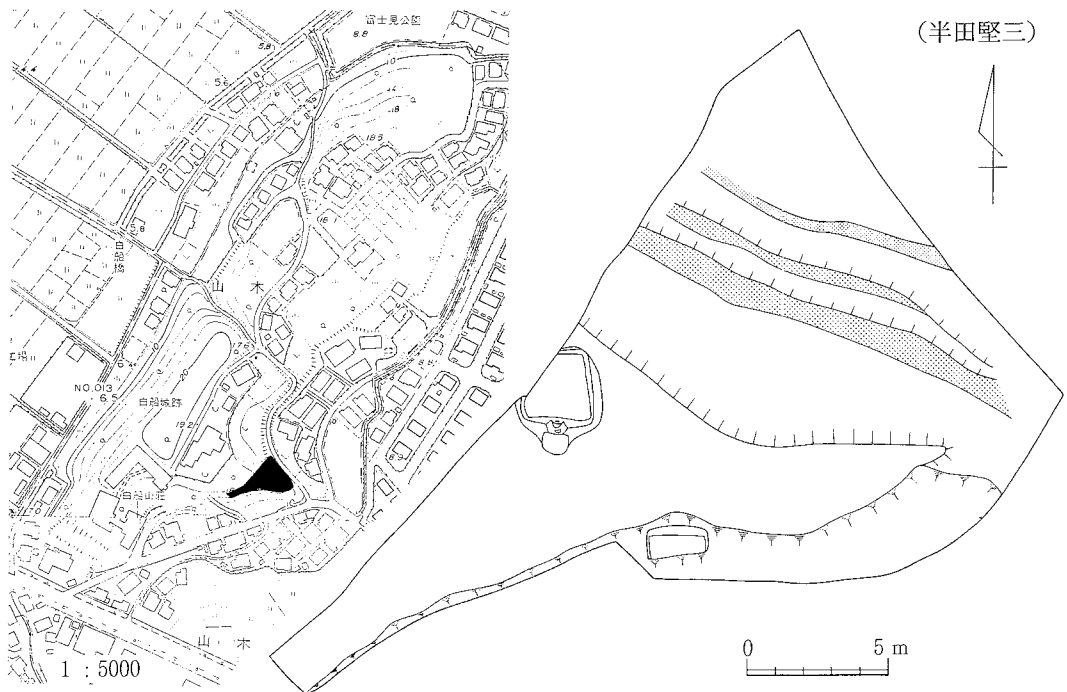
調査面積 241㎡（本調査）

調査概要 市原市北部の海岸平野に面する独立丘陵上に立地する白船城跡は、数次にわたる調査が行われている。本年度は、確認調査の結果を受け台地南端の241㎡の調査となった。

台地上から、南に入り口を持つ地下式塙1基が検出された。入り口は一辺1m弱の方形で3段の足掛けを経て地下室に降りる。地下室は南で一辺2.5m奥行き2.3mの台形で、天井は崩落している。地下室床面から常滑大甕の破片が多数検出され、約二分の一個体に復元できた。遺跡は南側で削平されているが、その削平面に一辺2mの掘り込みが検出された。北側のものと同じ形態の地下式塙と考えられる。瀬戸縁釉小皿、美濃天目茶碗が出土している。

北東側は犬走り状の平坦面を2面持った斜面整形遺構、斜面下に排水溝状の溝を持つ平坦面が検出された。断面の観察から幅3mほどの溝状遺構が幾層か確認され、白船城の濠の一部と思われる、浅く規模を縮小しつつ数度にわたり造りなおされていた事がわかる。

地下式塙が2基検出され、確認調査でも地下式塙の可能性のある落ち込みが認められることと、出土遺物すべて16世紀前半であることから城内での墓域であったことが類推される。



第1図 山木白船城跡位置図（左）・全体図（右）

IV 平成2年度 受贈 図書 一覧

書 名	寄 贈 者	受 入 日
川本町史通史編	川本町教育委員会	2. 4. 6
日南町教育委員会文化財報告書 4	日南町教育委員会	〃
多里層の化石	同 上	〃
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第98集 埋文群馬No. 7・8 合併号	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 同 上	〃 〃
浦和市遺跡調査会報告書第100・110・124集	浦和市遺跡調査会	〃
風間遺跡群発掘調査報告書	法政大学	〃
浦和市立郷土博物館研究調査報告書第17集	浦和市立郷土博物館	〃
流山市埋蔵文化財調査報告Vol. 11	流山市教育委員会	〃
平成元年度流山市市内遺跡群発掘調査報告書	同 上	〃
上小岩遺跡Ⅱ	上小岩遺跡調査会	〃
各務原市資料調査報告書第11・12号	各務原市歴史民俗資料館	〃
平成元年度佐倉市埋蔵文化財発掘調査報告書	佐倉市教育委員会	〃
平成元年度船橋市市内遺跡群発掘調査報告書	船橋市教育委員会	〃
昭和62・63年度荒砥北部遺跡群発掘調査報告	群馬県教育委員会	〃
荒砥北部遺跡群発掘調査概報	同 上	〃
宇佐バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ	大分県教育委員会	〃
植田市遺跡Ⅱ	同 上	〃
飯田二反田遺跡	同 上	〃
草場第二遺跡	同 上	〃
根来寺坊院跡	和歌山県教育委員会	〃
広域遺跡群詳細分布調査概報	同 上	〃
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第97・105集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
解説シートNo. 7～12	調布市郷土博物館	〃
調布の文化財第7号	同 上	〃
郷土ウォッチングNo. 3	同 上	〃
豊中の文化財	豊中市教育委員会	〃
文化財ニュース豊中No.11・12	同 上	〃
豊中市文化財分布図	同 上	〃
古墳時代前半期の土器研究とその社会	埋蔵文化財研究会	〃
国立歴史民俗博物館データベース検索の手引き	国立歴史民俗博物館	〃
国立歴史民俗博物館データベース利用申請の手引き	同 上	〃
国立歴史民俗博物館データベースサービス案内	同 上	〃
特別展 飾りの文化	千葉県立上総博物館	〃
文化財教室シリーズ (110・111)	(財)滋賀県文化財保護協会	〃
滋賀文化財だよりNo.141～143	同 上	〃
滋賀県文化財目録平成元年度追録	同 上	〃
は場整備関係遺跡発掘調査報告書XⅦ- 5	同 上	〃
名古屋市博物館だより73	名古屋市博物館	〃
わらびてNo.47	岩手県立埋蔵文化財センター	〃
埋蔵文化財愛知No.20	(財)愛知県埋蔵文化財センター	〃
東京大学総合研究資料館ニュース	東京大学総合研究資料館	〃

書名	寄贈者	受入日
おおとね(通巻39号)	千葉県立大利根博物館	2. 4. 6
埋文とやま第30号	富山県埋蔵文化財センター	〃
浜松市博物館だよりNo.28・29号	浜松市博物館	〃
昭和63年度遺跡現地説明会資料	神戸市教育委員会	2. 4. 7
地下に眠る神戸の歴史展Ⅶ	同上	〃
神戸市須磨区戎町遺跡第1次発掘調査概報	同上	〃
昭和61年度神戸市埋蔵文化財年報	同上	〃
日暮遺跡発掘調査報告書	同上	〃
(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第53集	(財)北海道埋蔵文化財センター	〃
(財)長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書6	(財)長野県埋蔵文化財センター	〃
平成元年度野田市内遺跡群発掘調査報告	野田市教育委員会	2. 4. 9
平成元年度東金市内遺跡群発掘調査報告書	東金市教育委員会	〃
公立埋文協会報第4号	全国埋蔵文化財法人連絡協議会	〃
請西遺跡群発掘調査報告書Ⅱ	木更津市教育委員会	〃
丹過遺跡確認調査報告書Ⅱ	同上	〃
市内遺跡群発掘調査報告書	同上	〃
千束台遺跡群確認調査報告書	同上	〃
御津町埋蔵文化財発掘調査報告5	岡山県御津町教育委員会	2. 4. 10
総社市埋蔵文化財発掘調査報告8	総社市教育委員会	〃
八王子城跡Ⅺ	八王子市教育委員会	〃
須和間12号墳の調査	茨城大学	〃
市内遺跡群発掘調査報告平成元年度	八千代市教育委員会	2. 4. 11
我孫子市埋蔵文化財報告第13・14集	我孫子市教育委員会	〃
菩提木遺跡	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第101集	同上	〃
名古屋大学文学部研究論集107 史学36(考古学抜刷第5集)	名古屋大学文学部考古学研究室	2. 4. 13
平成元年度成田市内遺跡群発掘調査報告書	成田市教育委員会	〃
祭頭祭史料Ⅱ 古文書編	鹿島町教育委員会	〃
鹿島町の文化財第61集	鹿島町教育委員会	〃
平成元年度鎌ヶ谷市内遺跡群発掘調査概報	鎌ヶ谷市教育委員会	〃
滋賀埋文ニュース第120号	滋賀県埋蔵文化財センター	〃
資料館だより(通巻90)	沼津市歴史民俗資料館	〃
資料館解説シリーズ19	同上	〃
君津市内遺跡群確認調査報告書	君津市教育委員会	2. 4. 16
八王子市郷土資料館だよりNo.38・39	八王子市郷土資料館	〃
解説シートNo.5	同上	〃
八王子千人同心史編集ニュースNo.5	同上	〃
斎宮歴史博物館だよりNo.3・4	斎宮歴史博物館	〃
河南省文物展	同上	〃
今小路西遺跡(御成小学校内)平成元年度試掘及び確認調査概報	鎌倉市教育委員会	〃
今小路西遺跡(御成小学校内)発掘調査報告書	同上	〃
魅力的なまちづくりのための文化拠点施設の整備・運営に関する調査研究	(財)地方行政システム研究所	2. 4. 18
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第89・104集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
柏市埋蔵文化財調査報告書15・16	柏市教育委員会	2. 4. 19
平成元年度市内遺跡群発掘調査報告書	同上	〃

書名	寄贈者	受入日
京都府遺跡調査報告書第13冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	2. 4. 19
関市文化財調査報告第14・15・18号	関市教育委員会	"
名古屋薄立遺跡発掘調査報告書	下総町教育委員会	"
菊水城址主郭部調査報告書	同上	"
大和田坂ノ上遺跡	同上	"
成井鶴ヶ峰遺跡発掘調査報告書	同上	"
大菅向台遺跡発掘調査報告書	同上	"
下総町文化財調査報告Ⅲ・Ⅶ	同上	"
名木大台遺跡第2次調査	同上	"
下総町内遺跡群発掘調査報告1988・1989年度	同上	"
猿山膳棚遺跡	同上	"
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第99集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	2. 4. 20
神奈川県埋蔵文化財調査報告32	神奈川県教育委員会	"
第6回特別展示図録 豊後キリシタン史	大分市歴史資料館	"
大分市歴史資料館年報1989	同上	"
研究連絡誌第28号	(財)千葉県文化財センター	"
埋蔵文化財発掘調査報告書第34～37集	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	2. 4. 24
国立歴史民俗博物館研究報告第25・26集	国立歴史民俗博物館	"
写真集MOA美術館	MOA美術館	"
越前・珠洲	同上	"
信楽	同上	"
備前	同上	"
丹波	同上	"
瀬戸	同上	"
常滑・渥美	同上	"
箱根美術館鑑賞手引	同上	"
MOA美術館名品図録総合篇	同上	"
名越・山王堂跡発掘調査報告書	鎌倉考古学研究所	2. 4. 25
長谷1丁目290-1地点遺跡	同上	"
由比ヶ浜三丁目194番25外遺跡調査報告	同上	"
史跡若宮大路遺跡発掘調査報告書・Ⅲ	同上	"
十二所稲荷小路遺跡内やぐら	同上	"
昭和63年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書	同上	"
鳥取埋文ニュースNo.26	鳥取県埋蔵文化財センター	"
横須賀市文化財調査報告書第20集	横須賀市教育委員会	2. 4. 26
日立市文化財調査報告第21・22集	日立市教育委員会	"
日本の名陶百選展	日本経済新聞社	"
石川れきはく第14・15号	石川県立歴史博物館	"
第22回企画展漆器のあるくらし	小山市立博物館	2. 4. 27
向上遺跡	第2次本町田向上遺跡調査会	2. 5. 1
葦火25号	(財)大阪市文化財協会	"
お伊勢山遺跡の調査第4部弥生時代から平安時代	早稲田大学所沢校地文化財調査室	"
日本全国書誌No.1747	国立国会図書館	"
縄文時代土偶を例とした考古学術データベースとその支援システムの開発研究成果報告書	国立歴史民俗博物館	2. 5. 2

書名	寄贈者	受入日
袖ヶ浦町内遺跡群発掘調査報告書	袖ヶ浦町教育委員会	2. 5. 2
とまこまい埋文だよりNo.19	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	〃
さいたまの海	埼玉県立博物館	2. 5. 7
研究紀要7	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
新保田中村前遺跡 I	同上	〃
平尾城山古墳	(財)古代学協会	2. 5. 8
佐原市内遺跡群発掘調査概報IV	佐原市教育委員会	2. 5. 9
牧野大荒久遺跡発掘調査報告書	佐原市遺跡発掘調査会	〃
松原市遺跡発掘調査概要昭和63年度	松原市教育委員会	〃
関東地方における終末期古墳の研究	国立歴史民俗博物館	〃
小田原市文化財調査報告書第30集	小田原市教育委員会	〃
小田原城とその城下	同上	〃
全国遺跡地図奈良県	文化庁文化財保護部記念物課	〃
紀要X	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	2. 5. 10
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第136~147集	同上	〃
考古遺物資料集第10集平成元年度	同上	〃
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第102・106集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	2. 5. 11
研究紀要第12号	埼玉県立歴史資料館	〃
社団法人石川県埋蔵文化財保存協会年報1平成元年度	(社)石川県埋蔵文化財保存協会	〃
京都市埋蔵文化財研究所調査報告第8冊	(財)京都市埋蔵文化財研究所	2. 5. 14
小見川町内遺跡群発掘調査報告書	小見川町教育委員会	〃
埋蔵文化財調査(原町遺跡群)報告書	千葉県教育委員会	〃
埋蔵文化財調査(園生貝塚)報告書	同上	〃
埋蔵文化財調査(市内遺跡群)報告書	同上	〃
埋蔵文化財ニュース67・68	奈良国立文化財研究所	〃
京都府埋蔵文化財情報第35号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃
地機で織る越後縮	一宮市博物館	2. 5. 18
一宮市博物館研究紀要1	同上	〃
一宮市博物館資料目録(1)	同上	〃
常設展示図録	板橋区立郷土資料館	〃
高島秋帆と澤太郎左衛門	同上	〃
板橋区立郷土資料館紀要第8号	同上	〃
板橋区立郷土資料館施設概要	同上	〃
久保田城跡	秋田市教育委員会	2. 5. 21
平成元年度秋田城跡発掘調査概報	同上	〃
調布の年中行事	調布市郷土博物館	〃
調布の動物ばなし	同上	〃
(財)勝田市文化振興公社文化財調査報告第3集	(財)勝田市文化・スポーツ振興公社	〃
泉南市遺跡群発掘調査報告書VII	泉南市教育委員会	2. 5. 22
瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告V・VI	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	〃
日本考古学研究所集報XII	日本考古学研究所	2. 5. 23
平成元年度沼南町内遺跡群発掘調査報告書	沼南町教育委員会	2. 5. 29
高槻市文化財年報昭和61・62年度	高槻市教育委員会	〃
嶋上郡衙跡他関連遺跡発掘調査概要・14	同上	〃
向日市埋蔵文化財調査報告書第28集	(財)向日市埋蔵文化財センター	〃

書名	寄贈者	受入日
國學院大學考古学資料館紀要第6輯	國學院大學考古学資料館	2. 5. 29
國學院大學考古学資料館要覧1989	同上	〃
千葉県山武郡芝山町史料目録第1集	芝山町教育委員会	〃
中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書 4	(財)長野県埋蔵文化財センター	〃
神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告15	神奈川県立埋蔵文化財センター	〃
大村遺跡	松本市教育委員会	2. 5. 31
松本市文化財調査報告No.74・80・83～87	同上	〃
紀要第3号	(財)滋賀県文化財保護協会	〃
鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報V平成元年度	鹿児島大学埋蔵文化財調査室	2. 6. 1
平成元年度松戸市内遺跡群発掘調査概報	松戸市教育委員会	〃
植之台遺跡発掘調査報告書	玉川文化財研究所	〃
香林寺北遺跡発掘調査報告書	同上	〃
高燥遺跡第2次発掘調査報告書	同上	〃
高倉遺跡発掘調査報告書	同上	〃
第22回特別展「絵図・地図でみる大田区」図録	大田区立郷土博物館	〃
千葉県中近世城跡研究調査報告書第10集	千葉県教育委員会	〃
八日市場市大寺廃寺跡確認調査報告書	同上	〃
千葉市中原窯跡確認調査報告書	同上	〃
横芝町山武姥山貝塚確認調査報告書	同上	〃
千歳市文化財調査報告書XIV・XV	千歳市教育委員会	2. 6. 4
峠遺跡発掘調査報告書	石岡市教育委員会	〃
峠遺跡確認調査報告書	同上	〃
四街道市内遺跡群発掘調査報告書1990	四街道市教育委員会	2. 6. 6
入ノ台第2遺跡発掘調査報告書	同上	〃
埴輪の世界(資料)	宇治市教育委員会	2. 6. 7
宇治市埋蔵文化財発掘調査概報第15集	同上	〃
幕藩体制下の房総	船橋市郷土資料館	2. 6. 11
平成元年度船橋市郷土資料館年報	同上	〃
第54・55回展示資料観覧のまひき	同上	〃
神奈川県の遺跡	神奈川県教育委員会	2. 6. 14
愛知大学用地内埋蔵文化財発掘調査報告書	三好町教育委員会	〃
浦和市遺跡調査会報告書第120・127・131集	浦和市遺跡調査会	〃
シンポジウム考古学と中世史研究中世考古学及び隣接諸学から資料集(補遺)	帝京大学山梨文化財研究所	〃
史跡法安寺跡(本文編・資料編)	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	〃
安城歴史研究第15号	安城市教育委員会	2. 6. 18
高松町大海西山遺跡発掘調査概要報告書	高松町教育委員会	〃
高松町若緑ヤキノ窯跡	同上	〃
八野古窯跡群発掘調査概要報告書	同上	〃
昭和63年度市川市埋蔵文化財発掘調査報告	市川市教育委員会	〃
千葉県市川市埋蔵文化財分布地図	同上	〃
平成元年度市川市内遺跡群発掘調査報告	同上	〃
昭和63年度市川東部遺跡群発掘調査報告	同上	〃
伊勢国分寺跡第2次発掘調査概要	鈴鹿市教育委員会	2. 6. 19
宮崎県文化財調査報告書第33集	宮崎県教育委員会	〃
九州縦貫自動車道(人吉～えびの間)建設にともなう埋蔵文化財試掘調査報告書	同上	〃

書名	寄贈者	受入日
平成元年度農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書	宮崎県教育委員会	2. 6. 19
林遺跡	同上	〃
国衙・郡衙・古寺跡等遺跡詳細分布調査概要報告書Ⅱ	同上	〃
秋田県文化財調査報告書第188～201集	秋田県埋蔵文化財センター	2. 6. 22
秋田県埋蔵文化財センター研究紀要第5号	同上	〃
秋田県埋蔵文化財センター年報8平成元年度	同上	〃
国立歴史民俗博物館研究報告第27・28集	国立歴史民俗博物館	2. 6. 25
未来への伝言 宮久保遺跡発掘調査の記録	神奈川県立埋蔵文化財センター	2. 6. 26
真光寺・広袴遺跡群Ⅳ	鶴川第二地区遺跡調査会	2. 6. 27
國學院大學文学部考古学実習報告第19集	國學院大學文学部考古学研究室	〃
野田池A遺跡－Ⅰ地区発掘調査報告書	山武考古学研究所	2. 6. 29
原の内遺跡調査報告書	同上	〃
山武考古学研究所年報No.7昭和63年度	同上	〃
専光寺付近遺跡	同上	〃
古海松塚古墳群昭和63年度・平成元年度発掘調査概報	同上	〃
峠遺跡発掘調査報告書	同上	〃
長者屋敷跡発掘調査報告書	同上	〃
東京大学文学部考古学研究室研究紀要第8号	東京大学文学部考古学研究室	2. 7. 2
長岡京市文化財調査報告書第24・25冊	長岡京市教育委員会	〃
長岡京市埋蔵文化財センター年報昭和63年度	(財)長岡京市埋蔵文化財センター	〃
長岡京市埋蔵文化財調査報告書5集	同上	〃
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告第103集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
猿投	MOA美術館	2. 7. 3
君津郡市文化財センター年報No.7 昭和63年度	(財)君津郡市文化財センター	2. 7. 5
(財)君津郡市文化財センター現地説明会資料第19集	同上	〃
(財)大阪文化財センター通信No.4・5	(財)大阪文化財センター	〃
大阪文化財センター要覧	同上	〃
板橋区立郷土資料館紀要第8号	板橋区立郷土資料館	〃
前渡猿尾堤調査報告書	各務原市教育委員会	〃
各務原市文化財調査報告書第6・7号	同上	〃
鬼虎川遺跡第31次発掘調査報告	(財)東大阪市文化財協会	〃
吉田遺跡第1次発掘調査報告	同上	〃
港郷土資料館館報8 1989年度版	港区立港郷土資料館	〃
常設展示案内松山の原始・古代	松山市考古館・松山市立埋蔵文化財センター	〃
奈良市埋蔵文化財調査概要報告書平成元年度	奈良市教育委員会	〃
平城京東市跡推定地の調査Ⅷ	同上	〃
四街道市の文化財16号	四街道市教育委員会	2. 7. 6
貝塚博物館紀要第17号	千葉市立加曾利貝塚博物館	〃
前原町文化財調査報告書第27～34集	前原町教育委員会	〃
前原町立伊都歴史資料館	同上	〃
石川県立埋蔵文化財センター設立10年の記録	石川県立埋蔵文化財センター	〃
京都府遺跡調査概報第37～39冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃
考古資料図録Ⅴ	横須賀市人文博物館	2. 7. 7
千葉県白井町の民家調査－Ⅰ 1989年度	白井町教育委員会	2. 7. 9

書名	寄贈者	受入日
(財)香取郡市文化財センター調査報告書第1～3集	(財)香取郡市文化財センター	2. 7. 9
MOUSEION No. 35	立教大学学校・社会教育講座	"
10周年記念誌	君津市立久留里城址資料館	"
久留里城址資料館年報10(昭和63年度)	同上	2. 7. 13
妙法塚古墳	伊場遺跡資料館	"
根本山古墳群Ⅱ	同上	"
宮竹野際遺跡	同上	"
西脇遺跡	同上	"
転機2号	同上	"
小原子遺跡群調査報告書(本文編・図版編)	芝山町教育委員会	"
千葉県立房総風土記の丘年報13平成元年度	千葉県立房総風土記の丘	2. 7. 16
駒沢学園校地内遺跡発掘調査報告書	駒沢学園校地内遺跡調査会	"
北区埋蔵文化財調査報告書第6集	東京都北区教育委員会	"
特別展装飾古墳	水戸市立博物館	2. 7. 17
レトロ・レトロの展覧会	(財)滋賀県文化財保護協会	2. 7. 18
ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書XⅦ-4・7～12	同上	2. 7. 18
国友遺跡発掘調査報告書	同上	"
平成元年度発掘調査概要	同上	"
県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅵ-2	同上	"
金剛寺・後川遺跡発掘調査報告書Ⅰ	同上	"
滋賀県の諸職	同上	"
近江の文化財教室2	同上	"
近江の遺跡	同上	"
福谷城跡第4次発掘調査概要報告書	三好町教育委員会	2. 7. 20
大阪府下埋蔵文化財研究会(第22回)資料	(財)大阪文化財センター	"
鳥取県教育文化財団報告書25	(財)鳥取県教育文化財団・鳥取県埋蔵文化財センタ-	2. 7. 21
小町一丁目120番-1地点遺跡	鎌倉考古学研究所	2. 7. 23
佐助ヶ谷遺跡	同上	"
如意庵	同上	"
浄明寺釈迦堂ヶ谷遺跡	同上	"
尼崎市文化財調査報告第21集	尼崎市教育委員会	"
大場美佐の日記2	世田谷区立郷土資料館	"
世田谷区史料叢書第5巻	同上	"
東・北長山野遺跡	横芝町教育委員会	"
長崎県文化財調査報告書第97・98集	長崎県教育委員会	"
大宮の石造物(1)東部地域編	大宮市立博物館	2. 7. 25
明治期大宮の生活・教育・文化(上)	同上	"
第12回特別展大宮の生んだ近代画家	同上	"
常設展「大宮の歴史」	同上	"
大宮市立博物館研究紀要第2号	同上	"
大宮市立博物館要覧第3号	同上	"
京都府埋蔵文化財情報第36号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	2. 7. 30
(財)君津郡市文化財センター発掘調査報告書第44・47・50～52集	(財)君津郡市文化財センター	"
君津郡市文化財センター研究紀要Ⅲ	同上	"
尾呂(本文編 図版編)	瀬戸市教育委員会	2. 7. 31

書 名	寄 贈 者	受 入 日
愛知県埋蔵文化財情報 5 昭和63年度	愛知県教育委員会	2. 7. 31
(財) 愛知県埋蔵文化財センター年報平成元年度	(財) 愛知県埋蔵文化財センター	"
愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10~17集	同 上	"
特別展図録 古墳で探る地域の歴史	沼津市歴史民俗資料館	"
沼津市博物館紀要14	同 上	"
沼津市歴史民俗資料館資料集 8	同 上	"
第 8 回特別展 紫川弥生・古墳時代の風景	北九州市立考古博物館	2. 8. 1
研究連絡誌第29号	(財) 千葉県文化財センター	2. 8. 2
石生前遺跡の出土品	(株) ジャパン通信社	2. 8. 4
いわき市埋蔵文化財調査報告第15冊	(財)いわき市教育文化事業団	"
いわき市教育文化事業団研究紀要第1号1988	同 上	"
夏井麿寺跡Ⅲ	同 上	"
よみがえるいわきの歴史	同 上	"
材木町 5 遺跡調査報告書Ⅱ	釧路市埋蔵文化財調査センター	2. 8. 6
釧路市幣舞遺跡調査報告書	同 上	"
第3回MOA岡田茂吉賞展	MOA美術館	2. 8. 8
科学朝日 7	朝日新聞社	"
特別展小田原城とその城下その歴史と文化を掘る	小田原市教育委員会	"
筑波大学先史学・考古学研究第 1 号	筑波大学歴史人類学系先史学・考古学研究室	2. 8. 16
飛鳥・藤原宮発掘調査概報20	奈良国立文化財研究所	"
収蔵資料目録Ⅱ	千葉県立大根博物館	"
研究紀要第1号平成 2 年	港区教育委員会	2. 8. 17
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター年報 3・4	福井県教育庁埋蔵文化財調査センター	2. 8. 20
鉢伏 2・3 号窯址灰原発掘調査概報	同 上	"
苫小牧東部工業地帯の遺跡群Ⅲ	苫小牧市教育委員会	2. 8. 22
苫小牧の埋蔵文化財No. 3 (住居跡編)	同 上	"
苫小牧市埋蔵文化財調査センター概要No. 6	同 上	"
京都・古代との出会い	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	"
北海道の遺跡	(財)北海道埋蔵文化財センター	"
調査年報2平成元年度	同 上	"
(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書第61~67集	同 上	"
史跡斎宮跡	斎宮歴史博物館	2. 8. 24
企画展古代の祈り祓いの顔	同 上	"
下鶴間甲一号遺跡第3次調査	下鶴間甲一号遺跡調査団	2. 8. 27
富山県埋蔵文化財センター年報平成元年度	富山県埋蔵文化財センター	"
富山県総合運動公園内遺跡群発掘調査概要 I	同 上	"
北陸自動車道遺跡調査報告朝日町編 5	同 上	"
平泉の古絵図	田所真	"
まんが市原の歴史	市原市教育委員会	2. 8. 30
真田大原遺跡	東海大学校地内遺跡調査団	2. 8. 31
野田市埋蔵文化財調査報告書第 2・3 冊	野田市教育委員会	"
草戸千軒町遺跡 第40・41次発掘調査概要	広島県草戸千軒町遺跡調査研究所	2. 9. 1
鬼虎川遺跡第 1 ~ 3 次発掘調査報告	(財)東大阪市文化財協会	"
若江遺跡第32・33次発掘調査報告書	同 上	"
西ノ辻遺跡第21次発掘調査報告	同 上	"

書名	寄贈者	受入日
(財)東大阪市文化財協会概報集1989年度	(財)東大阪市文化財協会	2.9.1
栃木県埋蔵文化財保護行政年報昭和63年度	栃木県教育委員会	2.9.3
千葉県立中央博物館研究報告人文科学第1・2号	千葉県立中央博物館	"
長生郡市文化財センター年報No.4 昭和63年度	(財)長生郡市文化財センター	"
(財)長生郡市文化財センター調査報告第6・7集	同上	"
船田(図版篇)	大村直	2.9.5
市原地方史研究第16号	市原市教育委員会	"
市原のまつり	同上	"
千葉県長生郡一宮町埋蔵文化財分布地図	一宮町教育委員会	"
帝京大学山梨文化財研究所研究報告第2集	帝京大学山梨文化財研究所	2.9.6
古墳時代の研究第11巻 地域の古墳Ⅱ東日本	雄山閣出版	"
広島県の埋蔵文化財昭和63年度	広島県教育委員会	2.9.10
備後国府跡 推定地にかかる第8次調査概要	同上	"
明官地廃寺跡 第4次発掘調査概報	同上	"
第2回泉州の遺跡昭和61年度発掘調査成果展	大阪府教育委員会	"
第3回泉州の遺跡昭和62年度発掘調査成果展	同上	"
大園遺跡発掘調査概要・Ⅷ	同上	"
山陰地域研究第6号	島根大学付属図書館	2.9.11
鳥居前古墳総括編	大阪大学文学部考古学研究室	"
長法寺南原古墳Ⅳ	同上	"
日本古代葬制の考古学的研究	同上	"
雪野山古墳	同上	"
野尻町文化財調査報告書第4集	野尻町教育委員会	"
名古屋市博物館研究紀要第13巻	名古屋市博物館	2.9.14
平安京跡発掘調査概報	京都市埋蔵文化財調査センター	2.9.17
京都市内遺跡試掘立会調査概報	同上	"
中久世遺跡発掘調査概報	同上	"
植物園北遺跡発掘調査概報	同上	"
鳥羽離宮跡発掘調査概報	同上	"
松本市文化財調査報告No.82	松本市教育委員会	2.9.19
群馬町埋蔵文化財調査報告第27～29集	群馬町教育委員会	2.9.21
武蔵国分寺跡調査報告昭和39年～44年度	国分寺市教育委員会	"
武蔵国分寺跡遺物整理報告書昭和31・33年度	同上	"
武蔵国分寺跡発掘調査概報ⅩⅡ～ⅩⅤ	同上	"
史跡山中城跡Ⅶ	三島市教育委員会	2.9.25
十石洞遺跡	同上	"
伊豆国分寺関連遺跡Ⅰ	同上	"
三嶋大社境内遺跡Ⅰ	同上	"
三島スプリングスC. Cゴルフ場内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ	同上	"
三島C. Cゴルフ場内埋蔵文化財発掘調査概要報告書	同上	"
茨城県教育財団文化財調査報告第53～60集	(財)茨城県教育財団	2.9.27
年報9平成元年度	同上	"
福岡市埋蔵文化財センター年報第9号平成元(1989)年度	福岡市埋蔵文化財センター	2.9.28
栄町の石造物	栄町教育委員会	2.10.1
栄町の古木	同上	"

書名	寄贈者	受入日
郡山市文化財研究紀要第5号	郡山市教育委員会	2. 10. 1
水無遺跡Ⅱ	同上	〃
岩ヶ崎A遺跡	同上	〃
清水台遺跡	同上	〃
郡山館遺跡Ⅲ発掘調査概報	同上	〃
郡山東部10	同上	〃
田中遺跡	富米町教育委員会	2. 10. 2
諏訪下北遺跡発掘調査報告書	玉川文化財研究所	2. 10. 5
川瀬巴水	大田区立郷土博物館	〃
堺市博物館優品図録	堺市博物館	2. 10. 6
八街町史料目録1	八街町史編さん室	〃
葛飾区遺跡調査会調査報告第3・8集	葛飾区遺跡調査会	2. 10. 8
第27回特別展蚕糸業にみる近代の長野盆地	長野市立博物館	2. 10. 11
埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ	三重県埋蔵文化財センター	〃
昭和63年度大阪市内埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書	大阪市教育委員会	〃
湯之奥金山遺跡第1次調査概報	帝京大学山梨文化財研究所	〃
国府台1博物館学課程年報	和洋女子大学博物館学研究室	2. 10. 15
練馬区東京女学院校地遺跡	東京都練馬区教育委員会	〃
埋蔵文化財調査報告5平成元年度	同上	〃
堀北遺跡の発掘調査(第2地点)	同上	〃
練馬区発掘調査報告書平成2年3月	同上	〃
古墳文化のあけぼの	野田市郷土博物館	〃
橿原考古学研究所附属博物館特別展図録第34冊	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	〃
大迫山第1号古墳発掘調査概報	東城町教育委員会	2. 10. 16
埋蔵文化財年報(1)平成元年度	(財)富山県文化振興財団	2. 10. 18
東海北陸自動車道関連発掘調査概報(1)	同上	〃
九州歴史資料館年報平成元年度	九州歴史資料館	〃
古代の福岡	同上	〃
九州歴史資料館研究論集15	同上	〃
京都文化博物館調査研究報告第4・5集	京都府京都文化博物館学芸第2課	〃
(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第14・23・26・38・42・44・51・57輯	(財)大阪府埋蔵文化財協会	〃
埋蔵文化財調査室年報6昭和63年度	(財)北九州市教育文化事業団	2. 10. 22
研究紀要第4号	同上	〃
北九州市埋蔵文化財調査報告書第79・89~94・96集	同上	〃
九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報第12集(1988年度)	佐賀県教育委員会	〃
佐賀県文化財調査報告書第96・97集	同上	〃
第4回企画展古墳文化の終焉	栃木県立しもつけ風土記の丘資料館	〃
山口遺跡第5次発掘調査報告書	和歌山市教育委員会	〃
鳴神Ⅳ・Ⅴ遺跡発掘調査報告書	同上	〃
第13回特別展寿能城と戦国時代の大宮	大宮市立博物館	〃
海神台西遺跡第1次~第4次調査報告	船橋市教育委員会	〃
船橋市民家分布調査報告第7次 海神地区	同上	〃
ふなばしの歴史と文化財1990	同上	〃
八王子市埋蔵文化財年報平成元年度	八王子市教育委員会	2. 10. 24

書名	寄贈者	受入日
考古学者の考古学	(財)大阪文化財センター	2. 10. 26
古代の出雲と吉備・大和	島根県立八雲立つ風土記の丘	〃
神出1986	妙見山麓遺跡調査会	〃
宅原遺跡	同 上	〃
都賀遺跡 I	同 上	〃
播磨産銅史の研究	同 上	〃
小山市立博物館報第7号平成元年度版	小山市立博物館	2. 10. 28
ずーむあっぷいちかわ 柏井	市立市川考古博物館	〃
昭和63年度市立市川考古博物館年報	同 上	〃
第8回近畿地方埋蔵文化財研究会資料	(財)大阪文化財センター	2. 10. 29
日本の考古学その歩みと成果	東京国立博物館	〃
神奈川県立埋蔵文化財センター年報9平成元年度	神奈川県立埋蔵文化財センター	2. 10. 31
神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告21	同 上	〃
福島県文化財調査報告書第201~204・206~208・210~220集	(財)福島県文化センター	2. 11. 1
豊田市文化財叢書第18・19	豊田市教育委員会	〃
牧野義雄展	同 上	〃
祈りの世界	富山県埋蔵文化財センター	〃
いわき市埋蔵文化財発掘調査報告第27冊	(財)いわき市教育文化事業団	〃
京都府埋蔵文化財情報第37号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	2. 11. 5
中郷遺跡	八王子市落越遺跡調査団	〃
特別展喜多見氏と喜多見流茶道	世田谷区立郷土資料館	〃
栃木県文化振興事業団年報平成元年度	(財)栃木県文化振興事業団	〃
栃木県埋蔵文化財調査報告第93・94・98~101・106・107・110集	栃木県教育委員会	〃
金井・関山遺跡群	町田市教育委員会	〃
遙かなる古代	山梨県立考古博物館	2. 11. 7
山梨県立考古博物館山梨県埋蔵文化財センター要覧	同 上	〃
日本の郷土玩具	調布市郷土博物館	〃
土浦市立博物館紀要第2号	土浦市立博物館	〃
東海大学校地内遺跡調査団報告1	東海大学校地内遺跡調査団	2. 11. 8
日本窯業史研究所報告第24~30冊	日本窯業史研究所	〃
千葉県文化財センター年報No.3~9	石田広美	〃
千葉県文化財センター研究紀要2・4・5・7・8	同 上	〃
山田水呑遺跡考察篇別冊	同 上	〃
栄町大畑 I - 2 遺跡	同 上	〃
主要地方道成田安食線道路改良工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書	同 上	〃
昭和59年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報	同 上	〃
年報10平成元年度	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	2. 11. 9
研究紀要第7号	同 上	〃
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第84~94集	同 上	〃
古市古墳群をめぐる諸問題	藤井寺市教育委員会	2. 11. 13
埋蔵文化財の取り扱いについて	同 上	〃
藤井寺市文化財保護事業年報昭和54・55・56年度	同 上	〃
藤井寺市文化財保護事業年報昭和57・58・59年度	同 上	〃
藤井寺市文化財保護事業年報昭和60・61・62年度	同 上	〃

書名	寄贈者	受入日
愛知県陶磁資料館研究紀要 8	愛知県陶磁資料館	2. 11. 13
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団発掘調査報告書第85・108集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	2. 11. 14
シンポジウム「平安前期の村落とその仏教」発表要旨・資料	千葉県立房総風土記の丘	2. 11. 16
パソコンによる文化財銘文年表の作成	京都府立山城郷土資料館	〃
船橋の天道念仏	船橋市教育委員会	2. 11. 17
船橋市緊急民俗文化財調査報告第1次葛飾南部地区	同上	〃
春日台遺跡	八王子市教育委員会	〃
袖ヶ浦町史通史編下巻	袖ヶ浦町教育委員会	〃
兵庫県文化財調査報告書第35・36・51～64・66～68冊	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所	〃
千葉県文化財センター調査報告第170～183集	(財)千葉県文化財センター	2. 11. 21
千葉県文化財センター年報No.15 平成元年度	同上	〃
研究連絡誌第26～28号	同上	〃
北区埋蔵文化財調査報告第7集	東京都北区教育委員会	2. 11. 22
国指定史跡若宮大路遺跡発掘調査報告書・IV	鎌倉考古学研究所	〃
釈迦堂田楽辻子遺跡	同上	〃
大倉幕府周辺遺跡群	同上	〃
朝比奈砦遺跡発掘調査報告書	同上	〃
由比ヶ浜三丁目199番1地点遺跡調査報告	同上	〃
円覚寺統燈庵	同上	〃
佐倉考古展旧石器から弥生まで	佐倉市教育委員会	2. 11. 29
金大考古第18号	金沢大学文学部考古学研究室	〃
三重県埋蔵文化財センター年報1	三重県埋蔵文化財センター	2. 12. 5
総社市の歴史と文化財	総社市教育委員会	〃
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第111集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	2. 12. 6
神奈川県下における主要遺跡の分布とその問題点	神奈川県立埋蔵文化財センター	2. 12. 10
松東遺跡Ⅱ	(財)浜松市文化協会	〃
大門遺跡発掘調査報告	板橋区大門遺跡調査会	2. 12. 12
考古学論叢第14冊	奈良県立橿原考古学研究所	2. 12. 13
楠・荒田町遺跡発掘調査概報第5次	神戸市教育委員会	2. 12. 17
舞子・東石ヶ谷遺跡Ⅱ	同上	〃
楠・荒田町遺跡Ⅲ	同上	〃
住吉宮町遺跡第11次調査	同上	〃
長田神社境内遺跡発掘調査概報	同上	〃
狩口台遺跡発掘調査報告書	同上	〃
郡家遺跡	同上	〃
平成2年秋季特別展豊蔵の至芸	一宮市博物館	2. 12. 18
多摩ニュータウン遺跡昭和63年度(第1～3分冊)	(財)東京都教育文化財団東京都埋蔵文化財センター	2. 12. 19
研究論集Ⅷ	同上	〃
東京都埋蔵文化財センター年報10平成元(1989)年度	同上	〃
資料目録4	同上	〃
研究連絡誌第30号	(財)千葉県文化財センター	2. 12. 21
覚寺古墳群	覚寺古墳群発掘調査団	2. 12. 27
日南町教育委員会文化財報告書5	日南町教育委員会	〃
徳島県埋蔵文化財センター年報Vol. 1 1989年度	(財)徳島県埋蔵文化財センター	〃

書名	寄贈者	受入日
しもだ	下田遺跡調査団	2. 12. 27
御獅子塚古墳	豊中市教育委員会	"
平成2年度千葉県遺跡調査研究発表会発表要旨	千葉県文化財法人連絡協議会	3. 1. 11
難波宮跡・大坂城跡発掘調査中間報告Ⅱ	(財)大阪市文化財協会	3. 1. 18
岩手県内文化財調査報告第86集	岩手県教育委員会	"
平成元年度(財)向日市埋蔵文化財センター年報都城2	(財)向日市埋蔵文化財センター	"
向日市埋蔵文化財調査報告書第29・30集	同上	"
日本窯業史研究所報告第31～37冊	日本窯業史研究所	"
浄水寺跡発掘調査報告書第1分冊	石川県立埋蔵文化財センター	3. 1. 22
石川県城館跡分布調査報告	石川考古学研究会	"
元菊町遺跡	石川県立埋蔵文化財センター	3. 1. 22
松任市一塚イチノツカ遺跡	同上	"
倉部	同上	"
石川県立埋蔵文化財センター年報第9・10号	同上	"
宮永市遺跡発掘調査報告書	同上	"
押野西遺跡	同上	"
松任市北安田北遺跡Ⅲ	同上	"
瓦屋西C古墳群・瓦屋西Ⅱ遺跡・地藏平A・B古墳群・地藏平遺跡	(財)浜松市文化協会	"
松東遺跡発掘調査報告書	同上	"
下郡遺跡群	大分市教育委員会	"
真光寺・広袴遺跡群Ⅵ三矢田遺跡 遺構編	鶴川第二地区遺跡調査会	"
躍動する地域社会	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	"
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第112集	同上	"
季刊考古学第34号	雄山閣出版	3. 1. 24
苫小牧市静川37遺跡発掘調査(第二次)概要報告書	苫小牧市埋蔵文化財調査センター	3. 1. 28
奈良国立文化財研究所年報1989	奈良国立文化財研究所	"
若杉遺跡 十文字原遺跡 ふいが城遺跡	大分県教育委員会	"
第34回企画展図録古墳出現のなぞ激動の世紀に迫る	栃木県立博物館	3. 2. 2
君津郡市文化財センター年報No.2・4～6	(財)君津郡市文化財センター	"
町田市金井原遺跡群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	町田市小田急野津田・金井団地内遺跡調査会	3. 2. 6
高石五丁目遺跡発掘調査報告書	玉川文化財研究所	"
師岡打越遺跡発掘調査報告書	同上	"
10年のあゆみ	(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団	"
武蔵大学人文学会雑誌第2巻第3・4号 第22巻1・2号	武蔵大学人文学会	"
弥生文化 日本文化の源流をさぐる	平凡社	"
1979年度上総国分尼寺跡発掘調査概要	市原市教育委員会	"
安倍館・里館遺跡昭和61年度発掘調査概報	盛岡市教育委員会	"
大館遺跡群大新町遺跡昭和61年度発掘調査概報	同上	"
志波城跡平成元年度発掘調査概報	同上	"
昭和55～62年度千葉県の文化行政	石田広美	"
房総における奈良・平安時代の土器	同上	"
大津の歴史的町並み坂本と町並み保存	大津市教育委員会	3. 2. 8
穴太廃寺	同上	"
大津市埋蔵文化財調査報告書(15)	同上	"

書名	寄贈者	受入日
高丘E遺跡	苫小牧市教育委員会	3. 2. 12
(財)印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第33集	白井町教育委員会	〃
栃木県埋蔵文化財調査報告第102集	栃木県教育委員会	〃
京都府遺跡調査報告書第14冊	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃
古代の装身具・玉 烏山玉作り遺跡とその周辺	土浦市立博物館	〃
榛原町文化財調査報告第6集	榛原町教育委員会	3. 2. 15
高塚遺跡第2次発掘調査概要報告書	同上	〃
発掘さたれ字陀の古代文化	同上	〃
石畑狭山嶺遺跡調査報告書	石畑狭山嶺遺跡調査会	〃
第34回企画展古墳出現のなぞ激動の世紀に迫る	栃木県立博物館	〃
松任市源波遺跡	松任市教育委員会	3. 2. 19
研究紀要第1輯	(財)古代学協会	3. 2. 20
枚方の鋳物師(1)	(財)枚方市文化財研究調査会	3. 2. 28
枚方市文化財調査報告第23集	同上	〃
卑弥呼とその時代	泉南市教育委員会	〃
各務原市資料調査報告書第13号	各務原市歴史民俗資料館	〃
京都府埋蔵文化財情報第38号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	〃
浦和市遺跡調査会報告書第129・132・133・135・137・138集	浦和市遺跡調査会	〃
弥生文化 日本文化の源流をさぐる	大阪府立弥生文化博物館	3. 3. 1
開館記念特別展弥生の美	同上	〃
稲作文化の流れ東アジアの中の弥生文化	同上	〃
加曽利貝塚	千葉市立加曽利貝塚博物館	3. 3. 4
平成2年度千葉市の文化行政	同上	〃
千葉市立加曽利貝塚博物館開館20周年記念特別講座講演集	同上	〃
考古資料図録	田中新史	〃
高槻市文化財調査概要XV	高槻市立埋蔵文化財調査センター	3. 3. 11
伊藤鉄夫・陽夫考古学資料目録I	法政大学文学部考古学研究室	〃
房総考古学ライブラリー5 古墳時代(1)	(財)千葉県文化財センター	〃
千葉県文化財センター研究紀要12	同上	〃
松原千疊敷遺跡試掘調査報告書	淡神文化財協会	〃
年報V昭和63年度	(財)広島県埋蔵文化財調査センター	〃
賀茂学園都市開発整備事業地内(西高屋地区)遺跡群V	同上	〃
広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第85~88集	同上	〃
高峰カントリークラブ予定地内遺跡確認調査報告書	高根沢町教育委員会	3. 3. 15
天狗沢瓦窯跡発掘調査報告書	敷島町教育委員会	3. 3. 18
静岡県埋蔵文化財調査研究所研究紀要Ⅲ	(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所	〃
いのりとまつり	同上	〃
長崎遺跡	同上	〃
頭地遺跡・牛岡遺跡・向畑遺跡	同上	〃
坂尻遺跡	同上	〃
静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第7・12・20・22・23集	同上	〃
黒耀石(下巻)霧ヶ峰 鷹山	田中新史	〃
阿南町の化石	同上	〃
高島平北遺跡	辻本崇夫	〃

書名	寄贈者	受入日
寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書	近藤敏	3. 3. 18
北九州市文化財調査報告書第48・49集	北九州市教育委員会	3. 3. 29
三重県埋蔵文化財調査報告38- 1	三重県埋蔵文化財センター	〃
京都市埋蔵文化財研究所調査報告第10冊	(財)京都市埋蔵文化財研究所	〃
神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告20	神奈川県立埋蔵文化財センター	〃
秦野市砂田台遺跡調査の概要	同上	〃
野田市遺跡調査会報告第9・10冊	野田市教育委員会	〃
事業報告 I 昭和63年度・平成元年度	(財)香取郡市文化財センター	〃
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第109・113集	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団	〃
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター年報平成元年度	(財)香川県埋蔵文化財調査センター	〃
四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成元年度	同上	〃
四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第8・9冊	同上	〃
瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ	同上	〃

市原市文化財センター年報

(平成2年度)

平成6年12月21日 発行

発行 財団法人 市原市文化財センター
〒290 千葉県市原市能満1489番地
TEL 0436(41)9000

印刷 三陽工業株式会社
〒290 千葉県市原市五井5510の1
TEL 0436(22)4348